

構造設計特記仕様 (2)

修正箇所は下線を引くこと。
適用は ■ 印を記入する。

8. 鉄筋コンクリート工事

(1) コンクリート

鉄筋コンクリート工事の施工に関しては記載漏れは、JASS 5 による。
(a) コンクリートの仕様
本仕様書では、JASS 5 に規定する普通骨材を用いた一般仕様のコンクリートを「普通コンクリート」と定義し、表 9.1 に示す様に設計基準強度が 36N/mm² 以下のコンクリートについては JASS 5 の 3 節～11 節を用い、36N/mm² を超えるコンクリートについては JASS 5 の 17 節（高強度コンクリート）を適用する。また、設計基準強度もしくは品質基準強度と構造体強度補正率から定める調査管理強度以上とし、発注するレディミキストコンクリートの呼び強度が表 9.2 に示す JIS 規格となる場合は、法第 37 条の大径部材を使用した呼び強度を用いる必要がある。表 9.2 に示す普通コンクリートについては JASS 5 の 11 節によること。

設計基準強度 (N/mm ²)	Fc	18	21	24	27	30	33	36	39	42	45	48	51	54	57	60
JASS 5 での区分																
高強度コンクリート																

調査管理強度 (N/mm ²)	21	24	27	30	33	36	39	42	45	48	51	54	57	60	60B
呼び強度 (JIS 規格品) <td>21</td> <td>24</td> <td>27</td> <td>30</td> <td>33</td> <td>36</td> <td>40</td> <td>42</td> <td>45</td> <td>50</td> <td>55</td> <td>55</td> <td>60</td> <td>60</td> <td>■</td>	21	24	27	30	33	36	40	42	45	50	55	55	60	60	■

(b) 品質と施工
■ 構造体の計画使用期間の級は特記による。特記がない場合は標準とする。
□ 短期 □ 標準 □ 長期 □ 超長期
■ コンクリートは JIS A 5308 (レディミキストコンクリート) に適合する JIS 認証工場
の製造とする。
□ 設計基準強度が 36N/mm² を超えるコンクリートを扱うレディミキストコンクリート工場は、「高強度コンクリート」の製品認定を受けているか、建築基準法第 37 条第二号によって国土交通大臣が指定された工場として認定された高強度コンクリートの製造工場とする。
■ レディミキストコンクリート工場および高強度コンクリートを打設する施工現場には、コンクリート主任技士またはコンクリート技士、あるいはこれらと同等以上の知識経験を有すると認められる技術者が常駐しなければならない。
■ 施工者は、工事に先立ち、コンクリートの調査・製造計画、施工計画、品質管理計画を作成し、工事監督者の承認を得ること。
■ フレッシュコンクリートの流動性は、スランプまたはスランプフローで表し、設計基準強度が 36N/mm² 以下 33N/mm² 以上の場合スランプ 21cm 以下、33N/mm² 未満の場合スランプ 18cm 以下とし設計基準強度が 36N/mm² 超 45N/mm² 未満の場合はスランプ 21cm 以下またはスランプフロー 50cm 以下、設計基準強度が 45N/mm² 以上の場合スランプ 23cm 以下またはスランプフロー 60cm 以下とし、特記による。
■ コンクリートに含まれる塩化物量は、電化当量として 0.3kg/m³ 以下とする。
■ コンクリートの練混ぜから打込み終了までの時間は、原則として 120 分 (外気温が 25℃ を超える場合は 90 分) を限度とする。
■ コンクリートの打込み時の自由落下の高さは、コンクリートが分離しない範囲とする。
■ 打設直後は構造的に影響の少ない位置を選び打撃処理を行い、打込み前に十分な水溜しを行う。
■ 打込み後の空留養生の期間は、セメントの種類および設計基準強度に応じて 5 日以上とする。

(c) 調査および構造体コンクリート強度
1) 高強度コンクリート
□ 調査強度を定めるための基準とする材料は、特記による。特記のない場合は、28 日とする。
□ 構造体コンクリート強度を保證する材料は、特記による。特記のない場合は、91 日とする。
□ 構造体コンクリート強度は、次の ① または ② を満足するものとする。
① 標準養生した供試体による場合、調査強度を定めるための基準とする材料において調査管理強度以上とする。
② 構造体温度養生した供試体による場合、構造体コンクリート強度を保證する材料において設計基準強度に 3N/mm² を加えた値以上とする。

□ 調査管理強度は、以下による。
 $f_{cm} = f_c + \Delta S_c$ (N/mm²)
 $f_{cm} = f_c$: 高強度コンクリートの調査管理強度 (N/mm²)
 f_c : コンクリートの設計基準強度 (N/mm²)
 ΔS_c : 高強度コンクリートの構造体強度補正値で JASS 5 による。

□ 調査強度は標準養生した供試体の圧縮強度を表すものとし、下記の式を満足するように定める。
 $f \geq f_{cm} + 1.73 \sigma_c$ (N/mm²)
 $f \geq 0.85 f_{cm} + 3 \sigma_c$ (N/mm²)
 f : 高強度コンクリートの調査強度 (N/mm²)
 σ_c : 高強度コンクリートの圧縮強度の標準偏差 (N/mm²) でレディミキストコンクリート工場の実績による。実績がない場合は、 $0.1 (f_c + \Delta S_c)$ とする。

2) 普通コンクリート
■ 調査を定めるための基準とする材料は、原則として 28 日とする。
■ 構造体コンクリート強度は表 9.3 を満足すれば合格とする。

供試体の養生方法	試験材料 (1)	判定基準
標準養生 (2) <td>28 日</td> <td>$X \geq F_{cm}$</td>	28 日	$X \geq F_{cm}$
コア <td>91 日</td> <td>$X \geq F_c$</td>	91 日	$X \geq F_c$

ただし、X: 1 回の試験におよぶ 3 個の供試体の圧縮強度の平均値 (N/mm²)
 F_{cm} : コンクリートの調査管理強度 (N/mm²)
 F_c : コンクリートの設計基準強度 (N/mm²)
[注] (1) 1 材に於いては試験を行い、合格判定率を算出しない場合は、合格とする。
(2) 工事監理者の承認を得て、供試体調整後、翌日または 20±10% の日先づの雨天または雨前、乾燥しないよう養生して保管することができる。
■ 標準養生した供試体の代わりにあらかじめ準備した現場中養生供試体によることできる。その場合の判定基準は材料齢 28 日までの平均気温が 20℃ 以上の場合は、3 個の供試体の圧縮強度の平均値が調査管理強度以上であり、平均気温が 20℃ 未満の場合は、3 個の供試体の圧縮強度の平均値から 3N/mm² を減じた値が品質基準強度以上であれば合格とすることができる。
■ コア供試体の代わりにあらかじめ準備した現場から養生供試体によることできる。その場合の判定基準は材料齢 28 日を超え 91 日以内の日において 3 個の供試体の圧縮強度の平均値から 3N/mm² を減じた値が品質基準強度以上であれば合格とする。

■ 調査管理強度は以下による。
 $f_{cm} = f_c + \Delta S_c$ (N/mm²)
 $f_{cm} = f_c$: コンクリートの調査管理強度 (N/mm²)
 f_c : コンクリートの品質基準強度 (N/mm²)
 ΔS_c : 標準養生した供試体の材料齢 m 日における圧縮強度と構造体コンクリートの n 日における圧縮強度の差による構造体強度補正値 (N/mm²)

■ 調査強度は標準養生した供試体の材料齢 m 日における圧縮強度を表すものとし、下記の式を満足するように定める。調査強度を定める材料齢 n 日は、原則として 28 日とする。
 $F \geq \Delta S_c + 1.73 \sigma_c$ (N/mm²)
 $F \geq 0.85 f_{cm} + 3 \sigma_c$ (N/mm²)
F : コンクリートの調査管理強度 (N/mm²)
σ : 使用するコンクリートの圧縮強度の標準偏差 (N/mm²) で、レディミキストコンクリート工場の実績による。実績がない場合は、2.5N/mm²、または、0.1f_c の大きい方の値とする。

(d) 検査
■ フレッシュコンクリートの固化物測定は、原則として工事記録で (一) 国土地理院技術センターの技術評価を受けた測定器を用いて行い、試験結果記録及び測定結果の表示部を一度に撮影した写真 (カラー) を保管し、工事監督者の承認を得る。測定検査の回数、通常の場合 1 日 1 回以上とし、1 回の検査における測定試験は、同一試料から取り分け 3 回行い、その平均値を試験値とする。
■ スランプの許容差は、普通コンクリートの場合、スランプが 18cm 以下の場合 ±2.5cm、21cm の場合 ±1.5cm (呼び強度 27 以上で高性能 A 減水剤を使用する場合は ±2cm) とする。
高強度コンクリートの場合は、スランプが 18cm 以下の場合 ±2.5cm、21cm 以上の場合 ±2cm とし、スランプフローの許容差は、目標スランプフローが 50cm 以下の時は、±7.5cm、50cm を超える時は ±10cm とする。
■ 使用するコンクリートの圧縮強度試験は、普通コンクリートでは標準養生を行った供試体を用いて材料齢 28 日で行い、1 回の試験は打込み区ごと、打込み日ごと、かつ、150mm² またはその面積ごとに 3 個の供試体を用いて行う。3 回の試験で 1 検査ロットを構成する。
高強度コンクリートでは、打込み日かつ 300mm² ごとに検査ロットを構成して行う。1 検査ロットにおける試験回数は 3 回とする。検査は適当な間隔をあけた任意の 3 台のトラックアジテータから採取した合計 9 個の供試体による試験結果を用いて行う。検査に用いる供試体の養生方法は標準養生とする。
■ 構造体コンクリートの圧縮強度の検査は普通コンクリートでは、打込み区ごと、打込み日ごと、かつ 150mm² またはその面積ごとに 1 回行う。1 回の試験には適当な間隔をおいた 3 台の運搬車から 1 台ずつ採取した合計 3 個の供試体を用いる。
高強度コンクリートでは、打込み日、打込み区かつ 300mm² ごとに行う。検査は適当な間隔をあけた任意の 3 台のトラックアジテータから採取した合計 9 個の供試体を用いる。検査に用いる供試体の養生方法は標準養生または構造体温度養生とする。
■ 使用するコンクリートの圧縮強度の判定は、JASS 5 による。
構造体コンクリートの圧縮強度の判定は、(c) 調査および構造体コンクリート強度による。
□ コンクリートの試験は、「建築物の工事に係る試験および検査に関する東京都設置規」第 4 条の試験機関で行うこと。
試験・検査機関名 (都知事登録 号)
代行業者名 (登録番号 号)

(2) 鉄筋

(a) 施工
■ 鉄筋は JIS G 3112 (鉄筋コンクリート用鉄筋) に適合するものを用いる。溶接鋼および鉄筋格付は、JIS G 3551 (溶接鋼および鉄筋格付) に適合するものを用いる。
□ 高強度せん断補強筋は、技術評価を取得し、建築基準法第 37 条の材料認定を受けたものを用いる。
■ 鉄筋の加工方法、形状、鉄筋の継手位置、継手の重なり長さ、定着長さとは鉄筋コンクリート構造配筋標準 (1)～(3) による。
■ 鉄筋の継手は重ね継手、ガス圧継手、機械式継手または溶接継手によることとし、鉄筋径と使用箇所を定め特記による。

鉄筋継手方法	継手の位置等の設計条件による仕様・等級				鉄筋の径	使用箇所
	(1) 引張力最小部位	(2) (1) 以外の部	(3)	(4)		
■ 重ね継手	標準による	A 級	B 級	SA 級	■ D < 16) 以下	
■ 圧接継手	■ 告示 1463 号第 2 項各号	□	□	□	■ D < 19) 以上	
□ 溶接継手	■ 告示 1463 号第 3 項各号	□	□	□	□ D < () 以上	
□ 機械式継手	■ 告示 1463 号第 4 項各号	□	□	□	□ D < () 以上	

注 (1) (1) 以外の部位に設ける継手は、平成 12 年告示第 1463 号ただし書きに基づき、日本鉄筋手工会、日本建築センター等の認定、技術評価を取得した継手工法等で、構造計画にあたって「鉄筋継手使用条件 (建築物の構造部材技術規格設置 2007) 」によって特記した材料系・仕様によること。
■ 機械式継手および圧接継手および溶接継手は (公) 日本鉄筋手工会「鉄筋継手工事標準仕様書」による。所要の品質が得られるよう工事計画書及び工事管理計画を定め、工事監督者の承認を受ける。
■ ガス圧接の施工は、強風または降雨時に原則として作業を行わない。ただし、風除け・覆いなどの設備を有した場合には、工事監督者の承認を得て作業を行うことができる。
■ 圧接検査資格者は、(公) 日本鉄筋手工会によって認定された技術資格証明書で工事監督者に提出し、承認を受ける。
□ 機械式認定者工法による定着板には信頼できる機関による性能証明書を取得した定着金物を用いる。

(b) 検査
■ 名指し工法ごとの検査は平成 12 年告示 1463 号による。具体的な検査方法は、(公) 日本鉄筋手工会の仕様書を参照のこと。
表 9.5 継手の検査

継手方法	外観検査		引張試験		超音波探傷試験	
	■ 有	□ 無	■ 有	□ 無	■ 有	□ 無
1 ガス圧接	■ 有	100%	■ 有	■ 有	■ 有	■ 有
2 圧接	■ 有	■ 有	■ 有	■ 有	■ 有	■ 有
3 機械式	■ 有	■ 有	■ 有	■ 有	■ 有	■ 有

ガス圧接部分の検査を超音波探傷検査によって行う場合、最初の取ロットについては引張試験も併用し、1 回の引張試験は 5 本以上とする。(1) ロットは同一作業班が同一作業中に作業した圧接部分で、200mm 程度とする。)
□ 鉄筋に継手の試験・検査は「要綱」第 4 条の試験機関、又は第 5 条の検査機関で行うこと。
試験・検査機関名 (都知事登録 号)

(3) かぶり厚さ

■ 最小かぶり厚さは、表 9.6 に規定する設計かぶり厚さを 10mm 減じた値とする。
■ 設計かぶり厚さは、コンクリート打込み時の変形・移動などを考慮して、最小かぶり厚さが確保されるように、部材・部材ごとに定めるものとし、表 9.6 以上の値とする。

構造体の計画使用期間の級	標準・長期		超長期		
	部材の種類	厚さ	厚さ	厚さ	
構造部材	柱・梁・耐力壁	40	50	40	50
	床スラブ・壁スラブ	30	40	40	50
	構造部材と同等の耐久性を要求する部材	30	40	40	50
非構造部材	計画使用期間中に維持保全を行う部材 (1)	30	40	(30)	(40)
	直接土に接する柱・梁・壁および布基礎の立上り部分、埋壁の壁部分				50
基礎、埋壁の基礎・底盤				70	

注 (1) (1) 計画使用期間の級が超長期で計画使用期間中に維持保全を行う部材では、維持保全の期間に応じて定める。
(2) 計画使用期間の級が標準、長期、及び超長期で、耐久性有効な仕上げが施す場合は、埋壁側では設計かぶり厚さを 10mm 減じたこととする。

■ 完成した構造体の各部分における最小かぶり厚さの測定は、最小かぶり厚さ以上とする。
■ コンクリート構造体の検査目的、施工目的などを設ける場合は、建築基準法施行令第 79 条に規定する数値を差し、構造体上に必要な断面寸法を確保し、防水および耐久性有効な措置を講じれば上記より少なくても良い。

(4) 型枠
■ 定枠および仮設工の存置期間は、昭 63 年建築告示第 1655 号に基づき表による。

種別	せき板		受注	
	基礎、側溝、柱・壁	スラブ、梁下	スラブ上	梁下
セメントの種類	ポルトランドセメント A 種	ポルトランドセメント A 種	ポルトランドセメント A 種	ポルトランドセメント A 種
	ポルトランドセメント B 種	ポルトランドセメント B 種	ポルトランドセメント B 種	ポルトランドセメント B 種
	ポルトランドセメント C 種	ポルトランドセメント C 種	ポルトランドセメント C 種	ポルトランドセメント C 種

コンクリートの平均気温
15℃ 以上 2 3 4 6 8 17 28
5℃ ~ 15℃ 3 5 6 10 12 25 28
5℃ 未満 5 8 10 18 15 28 28

コンクリートの圧縮強度
■ 5.0N/mm² 設計基準強度の 50% 下記 (1) 参照 下記 (2) 参照

(1) 圧縮強度が設計基準強度 (Fc) の 85% 以上又は 12 N/mm² 以上であり、かつ、施工中の荷重及び分荷について、構造計算により安全であることが確認されるまで。
(2) 圧縮強度が設計基準強度以上であり、かつ、施工中の荷重及び分荷について、構造計算により安全であることが確認されるまで。
■ JASS 5 では普通コンクリートの場合計画使用期間の級が標準にあつては、5.0N/mm² 以上、長期及び超長期の場合は 10N/mm² 以上、高強度コンクリートの場合は 10N/mm² 以上。
注 1 片持木、底、スラブ 0.9m 以上の厚さ下は、工事監督者の承認による。
注 2 大梁の支保の設置は行わない。また、その他の場合も原則として行わない。
注 3 支保の撤去は、必ず上層のコンクリート打ち終った後に行う。
注 4 撤去後の支保撤去には、引張板、角材などはこれに代わるものを用いる。
注 5 支保の撤去は、引張板かつスラブで行う。一層の支保を同時に引張板として行わない。
注 6 撤去に際し、大きい積載荷重がある場合においては、支保 (大梁の支保を除く) の撤去を行わないこと。
注 7 支保の撤去は、養生中のコンクリートに有害な影響をもたらすおそれのある活動または作業を要しないように行うこと。

9. その他

■ 諸官庁への届出書類は遅滞なく提出すること。
■ 名指しの供試体は公的試験機関にて試験を行い工事監督者に報告すること。
■ 必要に応じて記録写真を取り保管すること。
■ 図面及び特記仕様に記載されていない事項は、すべて国土交通省大臣官庁審判部制定の「公共建築工事標準仕様書・図指針 (建築工種編) (最新版)」による。



一般職土木士事務所 (昭 63) 昭 77312 号
昭 208750 号 関口浪男

設計者 一般職土木士事務所 昭 77312 号
構造設計一般職土木士事務所 昭 77312 号 寺尾祐紀
構造設計一般職土木士事務所 昭 77312 号 寺尾祐紀
監理者 大久保 寺尾
担当責任者 寺尾
担当 村上

建設事務所 昭 6002 号 渡辺明元
建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀
建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀
建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀

建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀
建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀
建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀
建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀

建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀
建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀
建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀
建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀

建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀
建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀
建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀
建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀

建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀
建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀
建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀
建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀

建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀
建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀
建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀
建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀

建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀
建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀
建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀
建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀

建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀
建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀
建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀
建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀

建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀
建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀
建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀
建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀

建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀
建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀
建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀
建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀

建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀
建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀
建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀
建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀

建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀
建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀
建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀
建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀

建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀
建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀
建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀
建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀

建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀
建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀
建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀
建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀

建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀
建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀
建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀
建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀

建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀
建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀
建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀
建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀

建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀
建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀
建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀
建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀

建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀
建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀
建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀
建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀

建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀
建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀
建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀
建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀

建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀
建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀
建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀
建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀

建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀
建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀
建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀
建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀

建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀
建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀
建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀
建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀

建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀
建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀
建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀
建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀

建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀
建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀
建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀
建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀

建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀
建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀
建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀
建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀

建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀
建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀
建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀
建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀

建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀
建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀
建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀
建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀

建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀
建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀
建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀
建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀

建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀
建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀
建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀
建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀

建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀
建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀
建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀
建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀

建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀
建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀
建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀
建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀

建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀
建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀
建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀
建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀

建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀
建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀
建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀
建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀

建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀
建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀
建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀
建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀

建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀
建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀
建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀
建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀

建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀
建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀
建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀
建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀

建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀
建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀
建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀
建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀

建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀
建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀
建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀
建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀

建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀
建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀
建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀
建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀

建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀
建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀
建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀
建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀

建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀
建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀
建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀
建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀

建設事務所 昭 6002 号 寺尾祐紀
建設事務所 昭 6002 号

鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)

※修正箇所は下線を引くこと

1. 一般事項

(1) 構造図面に記載された事項は、本標準図に優先して適用する。

(2) 記号

d: 異形鉄筋の呼び名に用いた数値 (径) D: 部材の径、又は鉄筋内法直径
 ①: 閉鎖筋 r: 半径 CL: 中心線 lo: 部材間の内法距離 ho: 部材間の内法高さ
 ST: あばら筋 HOOP: 帯筋 S.HOOP: 補強帯筋

2. 鉄筋加工

(1) 鉄筋の折り曲げ加工

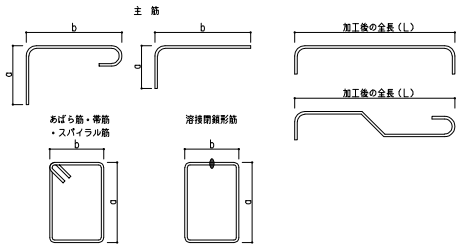
図	折り曲げ角度	鉄筋の種類	鉄筋の径による区分	鉄筋の折り曲げ内法直径(D)
180°	180°	SD295A SD295B	D16以下	3d以上
			D19~D41	4d以上
135°	135°	SD345	D19~D41	4d以上
			D41以下	5d以上
90°	90°	SD490	D25以下	5d以上
			D29~D41	6d以上

- [注] (1) dは呼び名に用いた数値とする。
 (2) スパイラル筋の重ね継手部に90°フックを用いる場合は、余長は12d以上とする。
 (3) 片持ちスラブ先端、壁筋の自由端部の先端で90°フックまたは135°フックを用いる場合は、余長は4d以上とする。
 (4) スラブ筋、壁筋には、溶接鋼を用いて先割を使用しない。
 (5) 折り曲げ内法直径を上表の数値よりも小さくする場合は、事前に鉄筋の曲げ試験を行い支障のないことを確認した上で、工事監督者の承認を得ること。
 (6) SD490の鉄筋を90°を超える曲げ角度で折り曲げ加工する場合は、事前に鉄筋の曲げ試験を行い、支障のないことを確認した上で、工事監督者の承認を得ること。

(2) 加工寸法の許容差

項目	目	符号	許容差
各加工寸法 ⁽¹⁾	D25以下	a, b	±15
	D29以上D41以下	a, b	±20
加工後の全長	あばら筋・帯筋・スパイラル筋	a, b	±5
	加工後の全長	L	±20

[注] (1) 各加工寸法及び加工後の全長の測り方の例を下図に示す。



(3) 鉄筋のあき

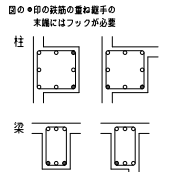
異形鉄筋では呼び名に用いた数値1.5d以上、粗骨材の最大寸法の1.25倍以上かつ25mmのうち最も大きい値

異形鉄筋

(4) 鉄筋のフック

a~eに示す鉄筋の末端部にはフックを付ける。

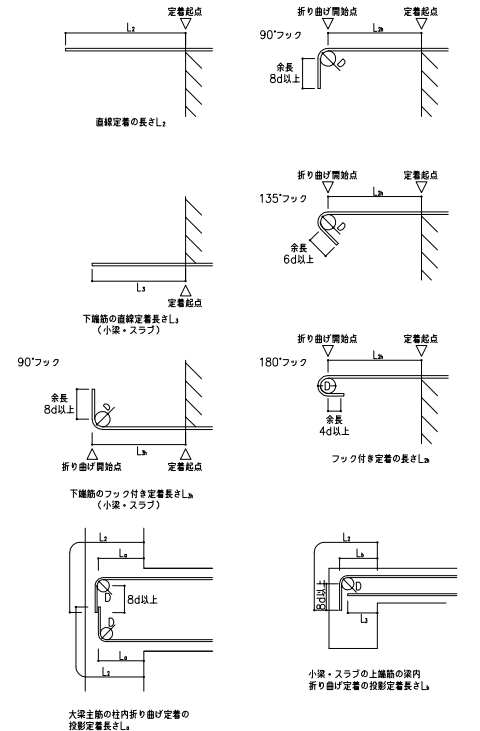
- あばら筋、帯筋、および幅止メ筋
- 煙突の鉄筋(壁の一部となる場合を含む)
- 柱、梁(基礎梁を除く)の出すみ部分および下層の面筋にある場合の鉄筋(右図参照)
- 単純梁の下層筋
- その他、本配筋標準に記載する箇所



(5) 定着長さ

鉄筋種別	コンクリートの設計基準強度 F _c (N/mm ²)	定着の長さ						小梁下層筋 (フックなし)	スラブ下層筋 (フックなし)
		L ₁ (フックあり)	L ₂ (フックあり)	L ₃ (フックあり)	L ₄ (フックあり)	L ₅ (フックなし)	L ₆ (フックあり)		
SD295A SD295B	18	40d	30d	20d	15d	—	—	—	
	21	35d	25d	15d	15d	—	—	—	
	24~27	30d	20d	15d	15d	—	—	—	
	30~36	30d	20d	15d	15d	—	—	—	
	39~45	25d	15d	15d	15d	—	—	—	
	48~60	25d	15d	15d	15d	—	—	—	
SD345	18	40d	30d	20d	20d	20d	10d	10d	
	21	35d	25d	20d	20d	—	—	—	
	24~27	35d	25d	20d	15d	—	—	—	
	30~36	30d	20d	15d	15d	—	—	—	
	39~45	30d	20d	15d	15d	—	—	—	
	48~60	25d	15d	15d	15d	—	—	—	
SD390	21	40d	30d	20d	20d	—	—	—	
	24~27	40d	30d	20d	20d	—	—	—	
	30~36	35d	25d	20d	15d	—	—	—	
	39~45	35d	25d	15d	15d	—	—	—	
	48~60	30d	20d	15d	15d	—	—	—	
	—	—	—	—	—	—	—	—	
SD490	24~27	45d	35d	25d	—	—	—	—	
	30~36	40d	30d	25d	—	—	—	—	
	39~45	40d	30d	20d	—	—	—	—	
	48~60	35d	25d	20d	—	—	—	—	
	—	—	—	—	—	—	—	—	
	—	—	—	—	—	—	—	—	

- [注] (1) フック付き鉄筋の定着長さL₁は、定着点から鉄筋の折り曲げ開始点までの距離とし、折り曲げ開始点以降のフック部分は定着長さに含まない。
 (2) フック部の折り曲げ内法直径D及び余長は、「鉄筋の折り曲げ加工」の表による。
 (3) 主筋を柱へ定着する場合、水平定着長さがL₁確保できない場合は折り曲げ定着とし、定着長をL₁以上とする。水平定着長さをL₁以上とし、余長を8d以上とする。L₁、L₂の値は原則として柱径の3/4倍以上とする。
 (4) 片持ちスラブの下層筋の定着長さは一般定着長さとする。



(6) 継手

■ 重ね継手

鉄筋種別	コンクリートの設計基準強度 F _c (N/mm ²)	重ね継手長さ		
		L ₁ (フックなし)	L ₂ (フックあり)	L ₃ (フックあり)
SD295A SD295B	18	45d	35d	—
	21	40d	30d	—
	24~27	35d	25d	—
	30~36	35d	25d	—
	39~45	30d	20d	—
	48~60	30d	20d	—
SD345	18	50d	35d	—
	21	45d	30d	—
	24~27	40d	30d	—
	30~36	35d	25d	—
	39~45	35d	25d	—
	48~60	30d	20d	—
SD390	21	50d	35d	—
	24~27	45d	35d	—
	30~36	40d	30d	—
	39~45	40d	30d	—
	48~60	35d	25d	—
	—	—	—	—
SD490	24~27	55d	40d	—
	30~36	50d	35d	—
	39~45	45d	35d	—
	48~60	40d	30d	—
	—	—	—	—
	—	—	—	—

- [注] (1) 表中のdは、異形鉄筋の呼び名の数値を表し、丸鋼には適用しない。
 (2) 直径の異なる鉄筋相互の重ね継手の長さは、径の大きい方による。
 (3) フック付き重ね継手の長さは、鉄筋相互の折り曲げ開始点間の距離とし、折り曲げ開始点以降のフック部分は定着長さに含まない。

■ 継手に関する注意

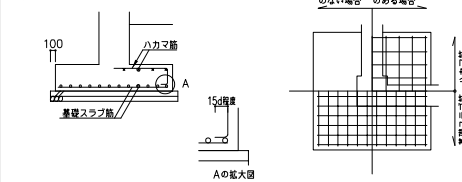
- 継手位置は、筋力の小さい位置に設けることを原則とする。
 - D29以上の異形鉄筋は、原則として、重ね継手としてはならない。
 - 鉄筋径の差が7mmを超える場合は、圧接としてはならない。
 - ガス圧接継手の形状、および継手の配置は下図による。
- ・ガス圧接形状(平成12年建設省告示1463号下図のほか、折れ曲がり、焼き割れ、へこみ、重ね下がり及び内部欠陥がないもの)
 2mm以下
- ・圧接継手
 ・重ね継手(下図のいずれかとする)
5. 溶接継手および機械式継手を用いる場合は信頼できる機関の評定等を受けたA級継手工法とする。
 6. 非破壊検査は工事監督者が承認した信頼できる検査機関で行うこと。

3. 杭・基礎

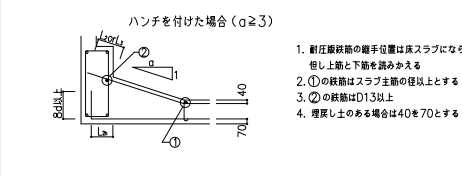
(配筋については地震力等の水平力を考慮して別途検討すること)

(1) 直接基礎

① 独立基礎



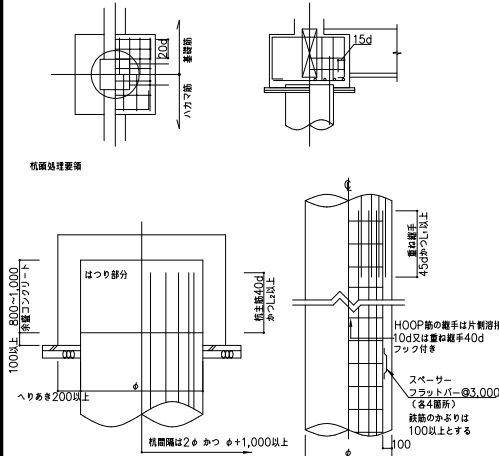
② ベタ基礎



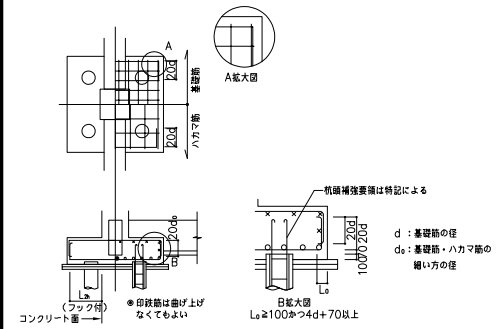
- 斜交筋の継手位置は床スラブにならうとし、上層と下層を誤りかえる
- ①の鉄筋はスラブ主筋の径以上とする
- ②の鉄筋はD13以上
- 埋戻し土のある場合は40≧70とする

(2) 杭基礎

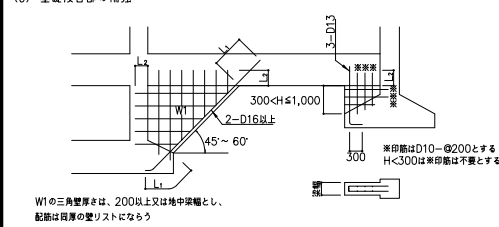
① 場所打ち杭



② PHC杭



(3) 基礎接合部の補強



一般職工労働組合
 (国労)
 東京都支部
 第208750号
 関口浪男
 設計者
 一般職工労働組合
 第376630号
 寺尾祐紀
 構造設計一般職工労働組合
 第8602号
 渡辺明元
 検査員
 大久保
 担当責任者
 寺尾
 監理
 村上

Job No. 23001
 工事名

金谷地区公民館
 新築工事
 (建築工事)
 発行日 2023.08
 図面名称

鉄筋コンクリート構造配筋
 標準図(1)
 図尺

鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (2)

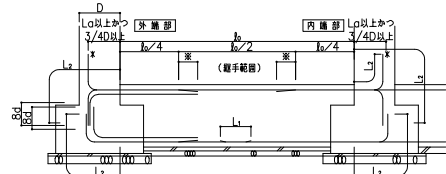
※修正箇所は下線を引くこと

4. 基礎梁

(1) 定着、継手

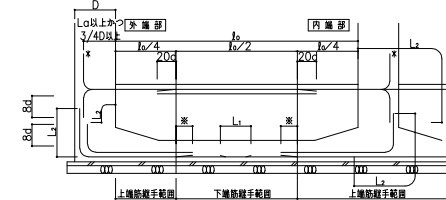
- 独立基礎、積層型の場合
- 長期荷重が支配的な場合の継手は6.(2)大梁継手位置とする

※上端主筋の定着は、やむをえない場合、上向きとすることができる。



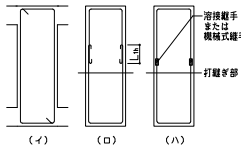
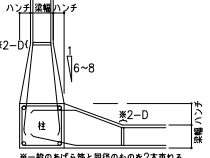
※主筋のカットオフ長さは $l_e/4 + 15d$ を基本とし、特別な長さを要する部分は表6-1による

□ 布基礎、べた基礎の場合



※主筋のカットオフ長さは $l_e/4 + 15d$ を基本とし、特別な長さを要する部分は表6-1による

(2) 水平ハンチの場合のあばら筋加工要領 (3) せいの高い梁のあばら筋加工要領図



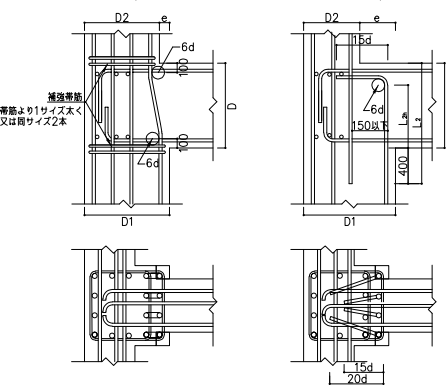
【注】(イ)で、 を使用してもよいが、 は使用してはいけない
(ロ)では、あばら筋の継手は180°フック付とする。

(6) 絞り

(a) $e \leq D/6$ かつ150

(b) $150 \geq e > D/6$

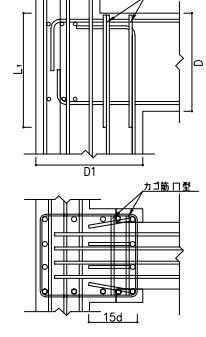
(c) $e = 150$ 以上 (下図を参考に設計図面に追記する)



1層は部の主筋は梁上から柱せい0.1.2倍の範囲を拘束筋で拘束する

拘束筋は以下による

- 帯筋と帯筋、帯ピンチ、X-Y 2巻きつ
- 図示による



カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

カゴ筋口型

鉄骨構造標準図 (2)

※修正箇所は下線を引くこと。

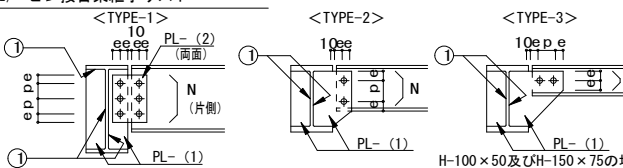
3. 継手標準図、その他

(1) 高力ボルト、ボルト、アンカーボルトのピッチ (P) ボルト穴径、最小縁端距離 (mm)

呼び径 d	ボルト穴径	最小縁端距離 (e)			ピッチ (P)	
		(1)	(2)	(3)	(2)(3)の標準	最小標準
M16	18	40	28	22	40	60
M20	22	50	34	26	40	60
M22	24	55	38	28	40	60
M24	26	60	44	32	45	70
M16	21 (16.5)		28	22	(40)	(60)
M20	25 (20.5)		34	26	(40)	(60)
M22	27 (22.5)		38	28	(40)	(60)
M24	29 (24.5)		44	32	(45)	(70)
M27	32		49	36		
M30	35		54	40		
M30を超える	呼び径+5		9d/5	4d/3		

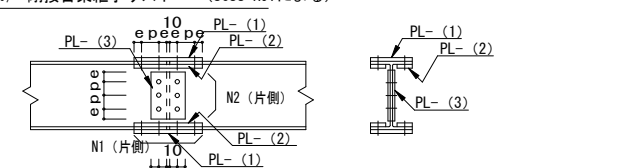
- 【注】 (1) 引張材の接合部で応力方向にボルトが3本以上並ばない場合の応力方向の縁端距離
 (2) せん断線・手動ガス切断線の場合の縁端距離
 (3) 圧延線・自動ガス切断線・のこ引き線・機械仕上線の場合の縁端距離

(2) ピン接合梁継手リスト



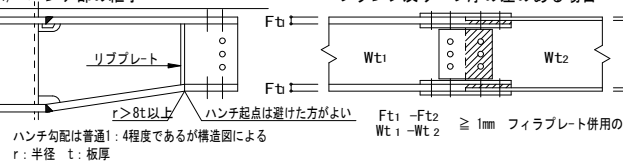
符号	タイプ	部材	フランジ		ウェブ	
			PL-(1)	PL-(2)	PL-(3)	N-径

(3) 剛接合梁継手リスト (SCSS-H971による)

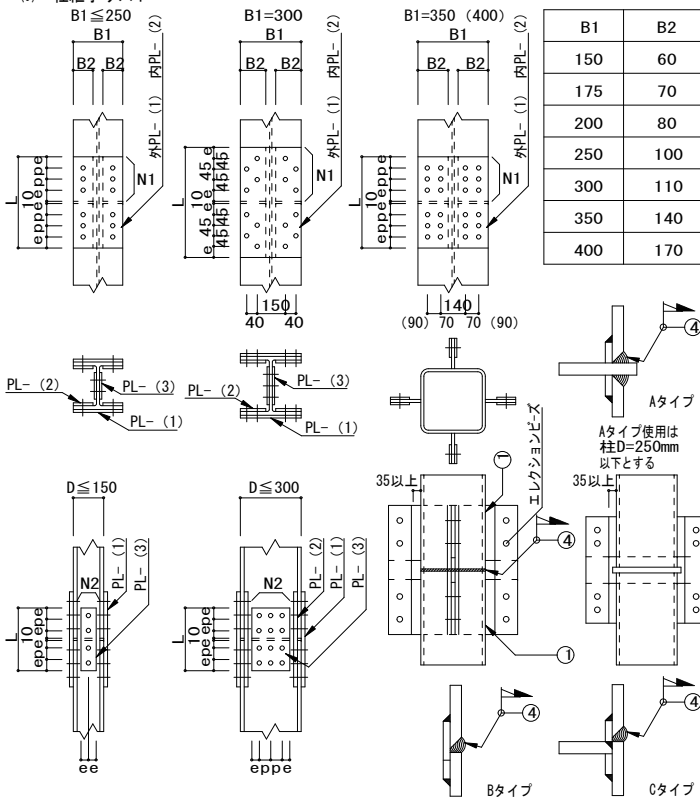


符号	部材	フランジ		ウェブ	
		PL-(1)	PL-(2)	PL-(3)	N2-径

(4) ハンチ部の継手



(5) 柱継手リスト



符号	部材	フランジ		ウェブ	
		PL-(1)	PL-(2)	PL-(3)	N2-径

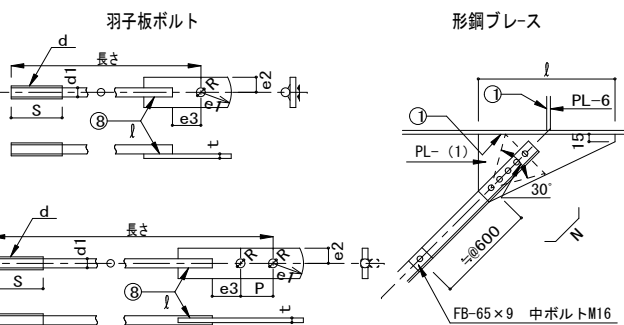
(6) 鉄筋ブレース (JIS規格品とする・・・ JIS A 5540 ... 2008 / 5541 ... 2008)

ねじの呼び (d)	軸径 d1	調整ねじの長さ S	取付ボルト穴径 許容差 +0 -0.5mm R	はしあき (最小) (2) e1	フランジ							ウェブ													
					PL-(1)	PL-(2)	N1-径	PL-(3)	N2-径	PL-(1)	PL-(2)	N1-径	PL-(3)	N2-径											
M12	10.83	100	17.0	40	10.59	12.41	14.41	16.07	18.07	20.07	21.69	28	28	28	34	34	38	38	52	52	59	66	66	73	70
M14	12.66	115	17.0	40	12.41	14.41	16.07	18.07	20.07	21.69	23.5	28	28	28	34	34	38	38	52	52	59	66	66	73	70
M16	14.66	125	17.0	40	14.41	16.07	18.07	20.07	21.69	23.5	25.5	6	6	6	9	9	9	9	52	52	59	66	66	73	70
M18	16.33	140	21.5	50	16.07	18.07	20.07	21.69	23.5	25.5	27.5	6	6	6	9	9	9	9	52	52	59	66	66	73	70
M20	18.33	150	21.5	50	18.07	20.07	21.69	23.5	25.5	27.5	29.5	6	6	6	9	9	9	9	52	52	59	66	66	73	70
M22	20.33	165	23.5	55	20.07	21.69	23.5	25.5	27.5	29.5	31.5	6	6	6	9	9	9	9	52	52	59	66	66	73	70
M24	22.00	175	23.5	55	21.69	23.5	25.5	27.5	29.5	31.5	33.5	6	6	6	9	9	9	9	52	52	59	66	66	73	70

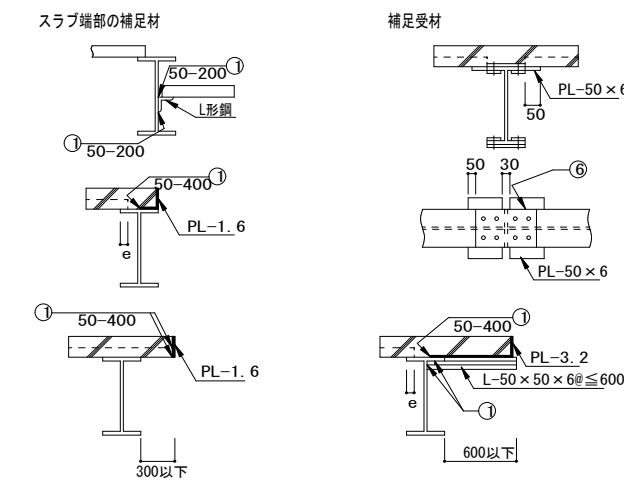
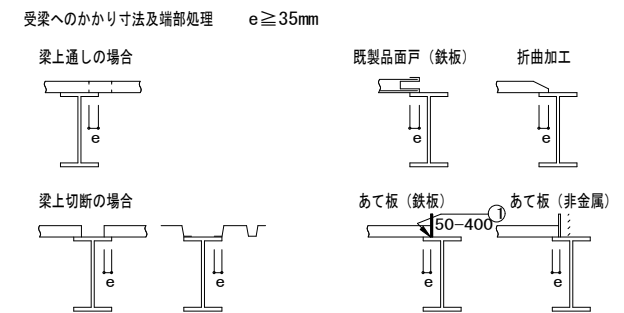
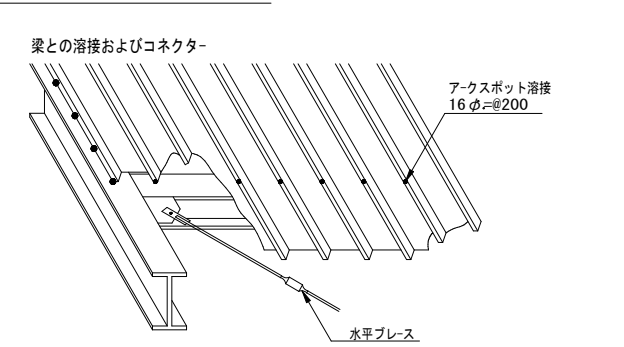
- 【注】 (1) e1, e2が確保されていれば形状は自由でよい
 (2) 羽子板とガセットプレートの場合は表に示す取付ボルトを使用し、一面せん断 (支圧) 接合とする

(b) 形鋼ブレース

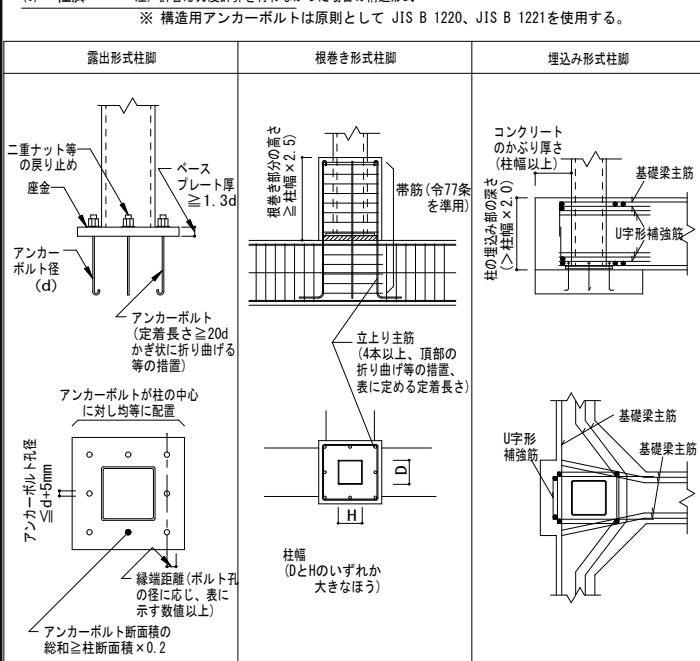
符号	部材	PL-(1)	N-径	l



(7) デッキプレート (床剛性を考慮する合成床、合成梁のときは構造図参照)

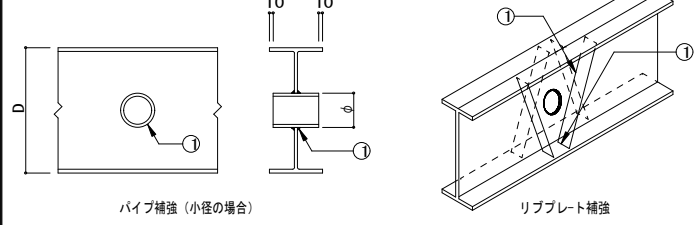
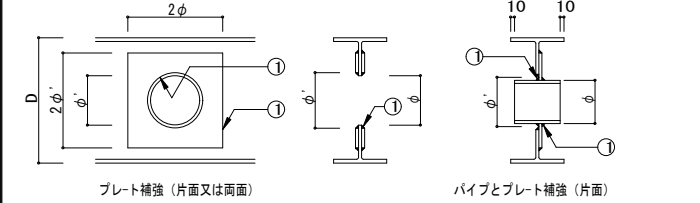
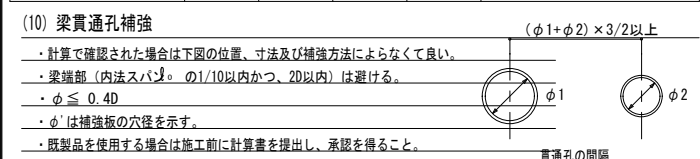


(8) 柱脚



(9) 頭付スタッド (JIS B 1198 - 2011)

形状	呼び名	スタッド材			
		軸径 d mm	頭径 D mm	頭高さ T mm	溶接後の長さ L mm
	φ13mm	13	25	8	□80 □100 □120 □
	φ16mm	16	29	8	□80 □100 □120 □
	φ19mm	19	32	10	□80 □100 □120 □150 □
	φ22mm	22	35	10	□80 □100 □120 □150 □
	φ25mm	25	41	12	□120 □150 □170 □



スリーブ径	補強板
φ ≤ 0.15D	補強板不要
φ ≤ D/4	Web板厚以上 (片面)
φ ≤ D/3	Web板厚 × 1.2倍以上 (片面)
φ ≤ 0.4D	Web板厚以上 (両面)

ハイベースNEO工法設計施工標準 (ハイベースNEO工法は、S造及びCF工造に適用) 2021/8

大臣認定 M5TL-0404,0180 (Gタイプ用ベースプレート) MBLT-0042-0046 (クランプ用ベースセット) BCJ評定 BCJ評定-ST0058 (Gタイプ) BCJ評定-ST0059 (Eタイプ)

本工法設計・施工は、鋼構造標準規程、鉄骨工事標準仕様、鉄骨工事標準仕様書 JASS 6 鉄骨工事、鉄骨工事標準仕様書・用語集 JASS 5 鉄骨コンクリート工事、およびハイベースNEO工法設計ハンドブックに準拠する。

設計

1. 材質 (1) ベースプレート・アンカーボルト・ナット・座金・定着板 エコタイプ (Eタイプ、EM型式、EH型式)

Table with columns: ベースプレート, アンカーボルト, エコナット, ナット, 座金, 定着板. Rows: 規格, ねじの種類, 備考.

Table with columns: ベースプレート, アンカーボルト, ナット, 座金, 定着板. Rows: 規格, ねじの種類, 備考.

(2) ベースプレート下面のモルタル ハイベース工法無収縮モルタルNX-2000、又はクイック3およびこれと同等以上の無収縮モルタル ※ センクシアが供給するものに限る

(3) 基礎・基礎ばり コンクリート O日本建築学会「JASS 5 鉄骨コンクリート工事」に適合する普通コンクリート

2. アンカーボルトのセット寸法 エコタイプ用アンカーボルト部品

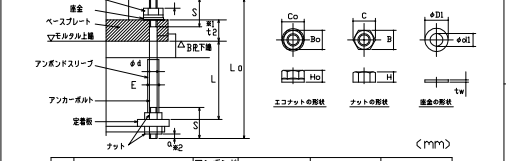


Table with columns: アンカーボルト, アンボンドスリーブ, エコナット, ナット, 座金. Rows: ねじの呼び, 規格, 備考.

注意 エコタイプのアンカーボルトはダブルナットとしており、締め止めは必ずダブルナットで確認してください。

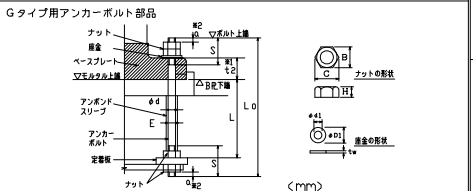


Table with columns: アンカーボルト, アンボンドスリーブ, ナット, 座金. Rows: ねじの呼び, 規格, 備考.

Table with columns: アンカーボルト孔径, エコタイプ孔径, Gタイプ孔径. Rows: M24, M30, M36, M42, M48, M56, M64, M72.

Table with columns: 定着板 (エコタイプ, Gタイプ共通), 定着板 (Eタイプ専用), 定着板 (Gタイプ専用).

3. ベースプレート下面モルタルの標準寸法

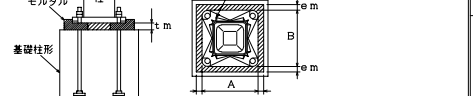


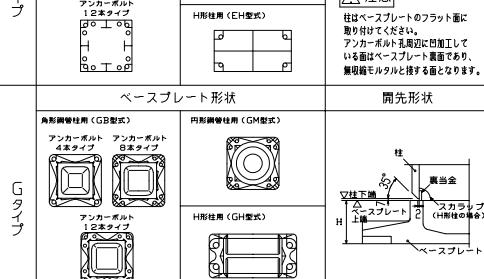
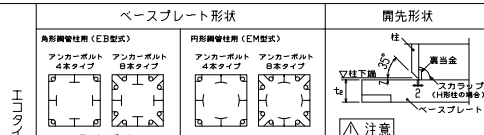
Table with columns: 各部分名称, 寸法, 備考. Rows: 基礎柱形, 中心塗り部分モルタルの厚さ (t), ベースプレート周辺のモルタル (e).

4. 基礎柱形主筋の定着長さ (最小値) 基礎柱形主筋の定着長さ (Lt) は、定着板上を境にして上下とも確保する必要があります。

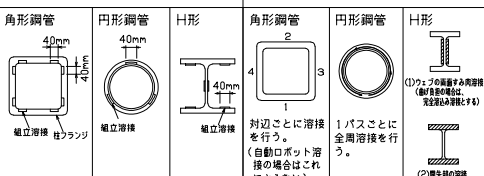
工場加工

1. 溶接材料 被覆アーク溶接 鉄水素率490N/mm² 鉄高強度鋼用 (JIS Z3211, 旧JIS Z3212) 相当以上

2. ベースプレートの鉄骨柱への取付け (柱端部に先を設ける) ※ 柱とベースプレートの溶接は完全溶込み溶接



3. 組立溶接 4. 本溶接の手順



5. 溶接施工一般 予熱 鋼材の種類、板厚により必要に応じて適切な予熱を行う。

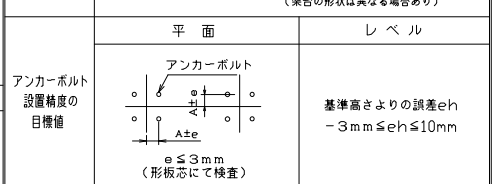
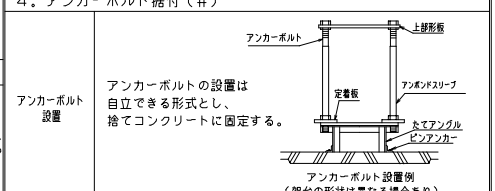
余盛 溶接余盛はベースプレート割A点から柱端部へ向かってなめらかに施工する。 H形柱の溶接 エンドトップの取付とH形柱ウェブの溶接

6. 検査 溶接部の検査を行う場合は、超音波探傷検査による。 不良溶接部の補正

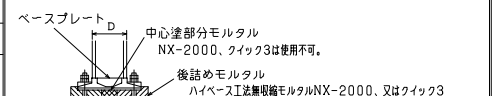
注意 アンカーボルトの設置、無収縮モルタルの充填、これらの施工は、センクシアが定めた認定業者が行うこと。

現場施工 (注): センクシアの担当範囲

1. 捨てコンクリート打設 柱脚部の捨てコンクリートの厚さは90mm以上とし、表面は平滑に仕上げる。



5. 鉄筋配筋・型枠の立込み 6. 基礎コンクリート打設 基礎柱形上面の自荒らし・水洗いを行ってください。



中心塗り部分モルタル NX-2000、クイック3は使用不可。 後詰めモルタル ハイベース工法無収縮モルタルNX-2000、又はクイック3

8. 鉄骨建方 アンカーボルト締付 アンカーボルトは隙間がないよう確実に締め付けを行う。

9. モルタル注入枠設置 (注) 後詰めモルタル充填 (注) アンカーボルト締付確認 (注) ベースプレートと座金とナットが密着していることを確認。

11. モルタル注入枠取り外し 施工完了後、ハイベースNEO工法のチェックシートに工事記録を記載する。

センクシア株式会社 URL https://www.senkcia.co.jp/ 本社 TEL 03-4214-1932 東京 TEL 027-322-9411 札幌 TEL 011-708-1177 中部 TEL 052-582-3356 東北 TEL 022-213-5559 関東 TEL 027-322-9411 関西 TEL 06-6395-2133 中国国 TEL 082-240-1630 九州 TEL 092-452-0341

一般職工事務所 (福岡) M31732号 管理職工士 一般職工士登録 第208750号 関口浪男

一般職工事務所 (新潟) M31732号 管理職工士 一般職工士登録 第208750号 関口浪男

建設者 寺尾祐紀 建設者 寺尾祐紀 建設者 寺尾祐紀 建設者 寺尾祐紀

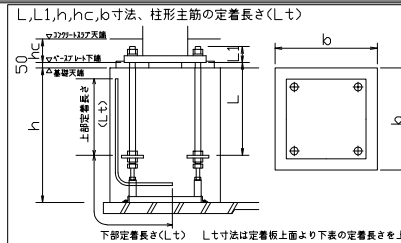
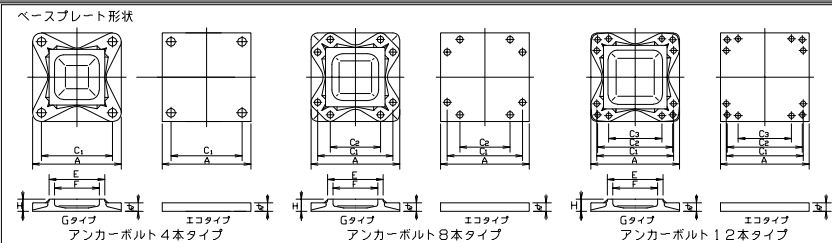
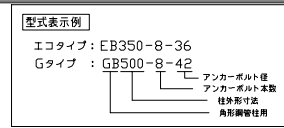
金谷地区公民館 新築工事 (建築士) 発行日 2023.08

ハイベースNEO工法 各種寸法及び基礎柱形設計例 (Fc24の場合) (ハイベースNEO工法Gタイプは、S造及びCFT造に適用)

大臣認定 MSLT-0404,0180Gタイプ用ベースプレート) MBLT-0042-0046(アンカーボルト) BCJ評定-ST0058(Gタイプ) BCJ評定-ST0059(Eタイプ) 本工法は設計・施工は、鋼構造設計院、検査工事技術協会、建築工事標準化委員会 JASB検査工事、建築工事標準化委員会、同解説 JASB鉄筋コンクリート工事、およびハイベースNEO工法設計ハンドブックに準拠する。

大臣認定 MSLT-0404,0180Gタイプ用ベースプレート) MBLT-0042-0046(アンカーボルト) BCJ評定-ST0058(Gタイプ) BCJ評定-ST0059(Eタイプ) 本工法は設計・施工は、鋼構造設計院、検査工事技術協会、建築工事標準化委員会 JASB検査工事、建築工事標準化委員会、同解説 JASB鉄筋コンクリート工事、およびハイベースNEO工法設計ハンドブックに準拠する。

2022/10



エコタイプはシングルナット仕様(コンクリートスラブに埋込) Gタイプはダブルナット仕様(露出が標準) 注)表中の内寸法は概算値です。 概算値の場合は実寸法に+100mm以上確保して下さい。 L1寸法+最大40mm以上の余裕となる寸法を確保してください。

ハイベースNEO工法 (角形鋼管柱用10150~0550)

Table with columns: 採用柱, 適用柱, ハイベースNEO型式, 寸法 (mm), 質量 (kg), 基礎柱形設計例 (Fc24), 基礎柱形設計例 (Fc24) 中柱用 (4方向から基礎梁が取り付く場合のみを示す。)

鉄筋はD13,D16#SD295,D19,D22,D25#SD345,D29#SD390をご利用ください。 表中に無いサイズについては別途お問い合わせください。 注) 1) I-ジョイントについてはハイベースNEO工法設計ハンドブックの各型式の節力図を参照下さい。 注) 2) 上記図中の柱径は、4方向から基礎梁が取り付いた状態を示します。この条件を有さない状態については、(側)・(隅)・(隅)用を参照下さい。 注) 3) 表中の鉄筋量は基礎径上りのない場合(基礎天端と基礎柱天端が一斉する場合)の設計値です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、ハイベースNEO工法設計ハンドブックに、日本建築学会の規程、資料に準拠した設計を行います。 注) 4) (L)柱用の鉄筋量は、基礎梁の中心から基礎径(D)の1/2以上はD13を200として算定しています。 あるいは鉄筋量は、(側)・(隅)・(隅)用の鉄筋量として下さい。 注) 5) 鉄筋の質量はアンカーボルト部品の形状を合わせた質量です。

センクシア株式会社 本社 TEL 03-4214-1932 関東 TEL 027-322-9411 関西 TEL 06-6395-2133 札幌 TEL 011-708-1177 中部 TEL 052-582-3356 中国国 TEL 082-240-1630 東北 TEL 022-213-5595 北陸 TEL 076-233-5260 九州 TEL 092-452-0341

URL https://www.sencicia.co.jp/ 金谷地区公民館 新築工事 (建築工事) 発行日 2023.08 更新日

一級建築士事務所 (監) 川崎 7732 号 管理棟 一級建築士事務所 第208750号 開口部 設計 寺尾祐紀 監理 寺尾祐紀 構造設計 一級建築士 第 8002 号 渡辺明元 建築検査士 大久保 建築検査士 寺尾 建築検査士 村上

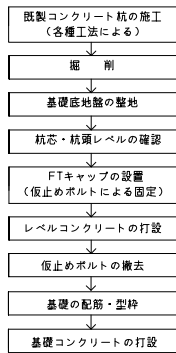
■構法概要

1. 本構法は、地震時の杭基礎の損傷低減を目的とした杭頭接合方法であり、既製コンクリート杭に用いる。
2. 杭頭を基礎（バイルキャップ）へ50～150mmの範囲で埋め込み、埋め込み部分において杭外周部とバイルキャップの界面にテーパ状のクリアランスを設ける。
3. 杭頭接合方法は、地震時に杭頭に引抜き力が作用しない箇所に適用する標準タイプと、引抜き力が作用する箇所にも適用できる引抜き対応タイプの2タイプがある。

■使用材料（適用範囲）

- ・杭：各種の既製コンクリート杭（PHO杭、SC杭、PRC杭、RC杭等）
- ・杭径：300mm～1200mm
- ・コンクリート（基礎（バイルキャップ）部）：普通コンクリート 設計基準強度：18～60 N/mm²（法第37条第一号もしくは第二号に該当するコンクリート）

■施工手順

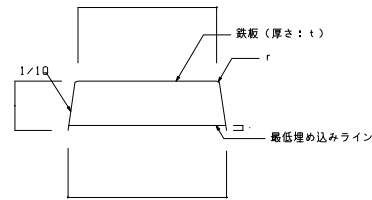


*留意事項

- ・施工開始前に施工計画書を作成し、工事監督者の承認を得ること。
- ・F.T.Pile構法の施工は、FTキャップ設置前にバイルメーカーによる施工説明・指導を受けた後、実施する。
- ・FTPの刻印があるFTキャップ（テーパ型枠）を使用すること。
- ・FTキャップの受入時にはFTPの刻印と変形や損傷の有無を確認する。
- ・既製コンクリート杭の設置に先立ち、杭頭の鍍板のボルト孔に泥土が入らないように養生を行う。
- ・杭頭レベルの誤差が品質管理許容差を超えた場合には、工事監督者・設計者と協議のこと。
- ・FTキャップを設置する際は、杭周囲の砕石等のレベルが周辺よりも高くなっていないことを確認する。
- ・FTキャップ設置後に木杭等でFTキャップを軽打し、鍍板との間に小石・砂等により、浮き・隙間が生じていないか確認する。
- ・レベルコンクリート打設前にFTキャップの最低埋め込みラインが隠れるまで砕石または現地発生土に埋め込まれているか目視確認する。
- ・仮止めボルトは、レベルコンクリート硬化後に撤去する。
- ・FTキャップの上には原則として基礎配筋用のスベークー等を置かないこと。
- ・施工完了後、施工結果を「施工チェックシート」に記録し、工事監督者に提出すること。

■FTキャップ（テーパ型枠）仕様

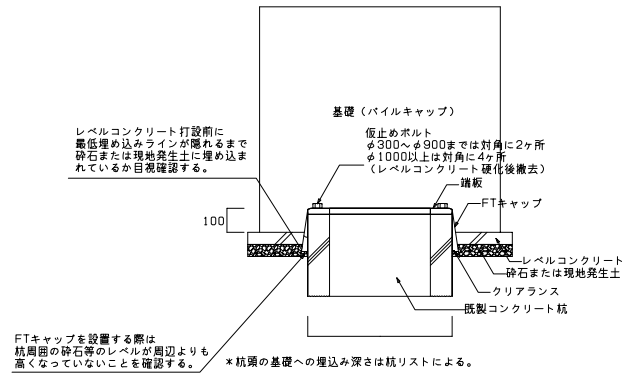
参考図



杭径: φ	鍍板厚さ: t (mm)	D1 (mm)	D2 (mm)	H (mm)	r (mm)	W (kg)
P30	300	1, 2	301	345	201	1, 8
	350	1, 2	351	395	201	2, 3
	400	1, 2	401	445	201	2, 7
P40	450	1, 2	451	495	201	3, 2
	500	1, 2	501	545	201	3, 8
	600	1, 6	601	645	201	7, 2
P60	700	1, 6	701	745	201	9, 0
	800	2, 0	801	845	201	13, 8
	900	2, 0	901	945	201	17, 4
	1000	2, 3	1001	1045	201	23, 9
	1100	3, 2	1101	1145	201	38, 6
	1200	3, 2	1201	1245	201	44, 3

- ・FTキャップの品質管理は製作工場で行われているため、施工時には下記の確認を行う。
- ・FTキャップに「FTP」の刻印があること。
- ・FTキャップに変形や損傷がないこと。

■杭頭部詳細図



*杭頭の基礎への埋め込み深さは杭リストによる。

一般建設士事務所 (有限)	M建 77312 号
管理棟 1F 一般建設士登録 第208750号	関口浪男
設計者	
一般建設士登録 第 375639 号	寺尾祐紀
構造設計一般建設士登録 第 8602 号	渡辺明元
構造関係施工適合認定番号	
検査者	大久保
担当責任者	寺尾
監理	村上

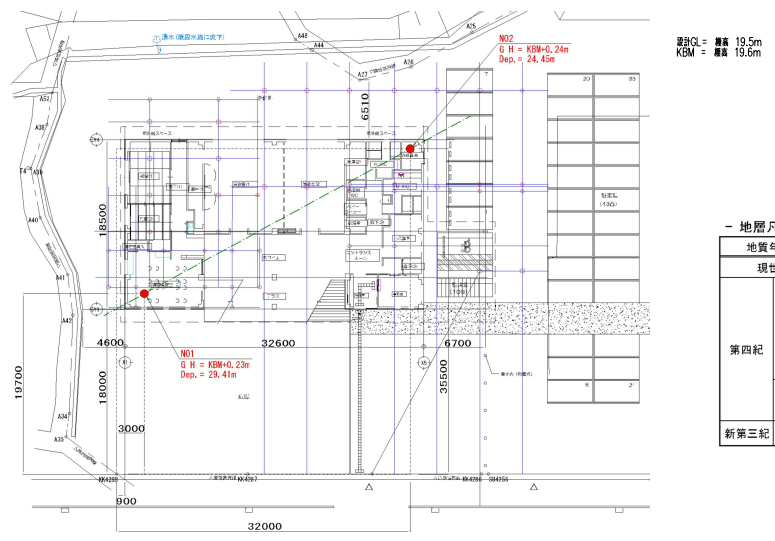
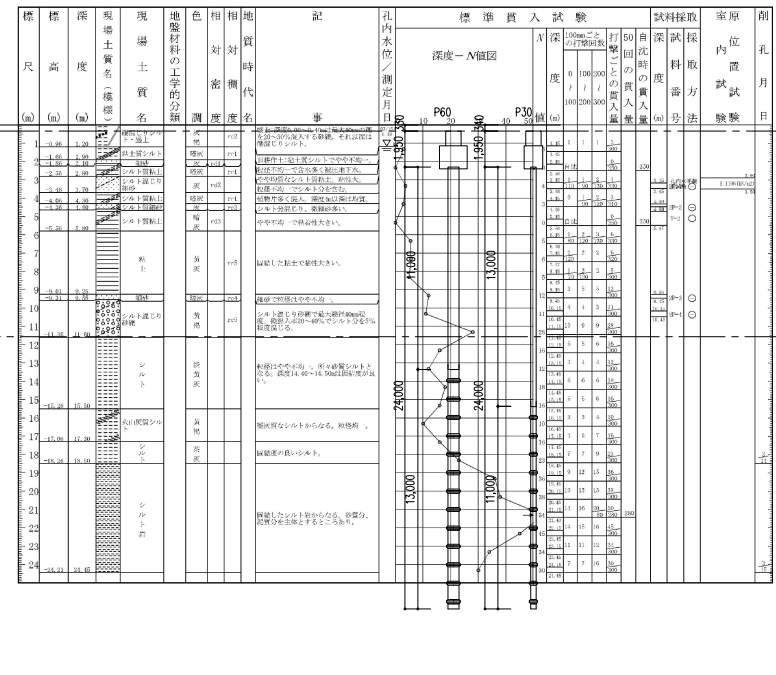
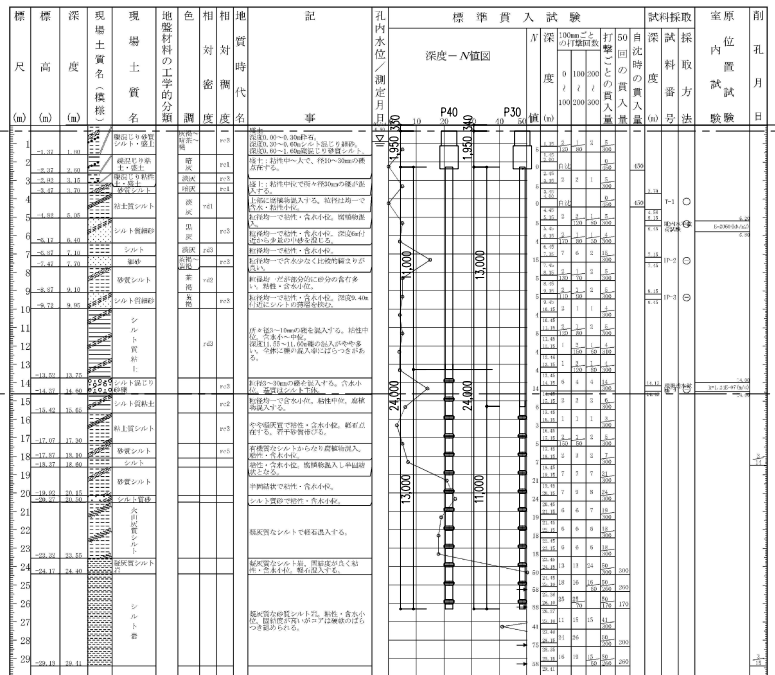
Job No. 23001
工事名

金谷地区公民館
新築工事
(建築工事)
発行日 2023.08
図面名称

F.T.Pile 構法
標準図 (参考図)
図尺

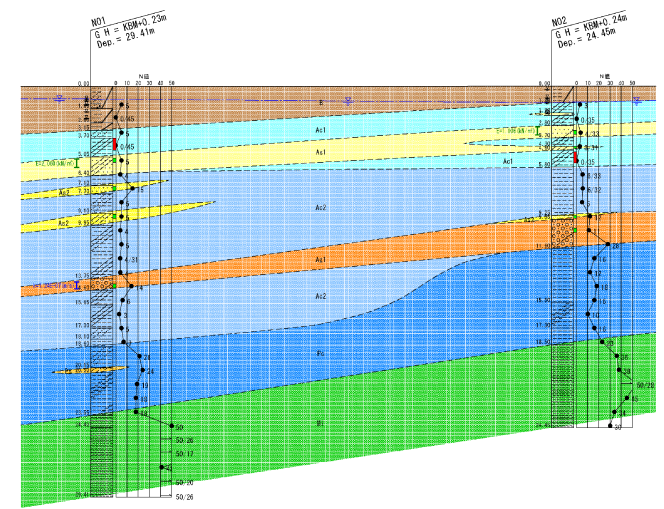
ボーリング名	N01	調査位置	新潟県上越市大貫2丁目地内	北緯	37° 06' 0.00"
発注機関	上越市	調査期間	2023年 3月 14日 ~ 2023年 3月 20日	東経	138° 13' 51.00"
調査業者名	株式会社新築地質 電話 025-22614号	主任技師	若杉 肇 登録番号 第22614号	ボーリング 装置	岩波和之 登録番号 第14771号
孔口標高	RBM 0.23m	代理人	高橋大樹 登録番号 第24378号	調査者	若杉 肇 登録番号 第22614号
総掘孔長	29.41m	地盤記	水圧計	試験機	YIM製 YIM-06
		方位	ポンプ	エンジン	ヤンマー製 NFAD-8

ボーリング名	N02	調査位置	新潟県上越市大貫2丁目地内	北緯	37° 06' 1.00"
発注機関	上越市	調査期間	2023年 3月 14日 ~ 2023年 3月 16日	東経	138° 13' 50.00"
調査業者名	株式会社新築地質 電話 025-22614号	主任技師	若杉 肇 登録番号 第22614号	ボーリング 装置	岩波和之 登録番号 第14771号
孔口標高	RBM 0.24m	代理人	高橋大樹 登録番号 第24378号	調査者	若杉 肇 登録番号 第22614号
総掘孔長	24.45m	地盤記	水圧計	試験機	YIM製 YIM-06
		方位	ポンプ	エンジン	ヤンマー製 NFAD-8



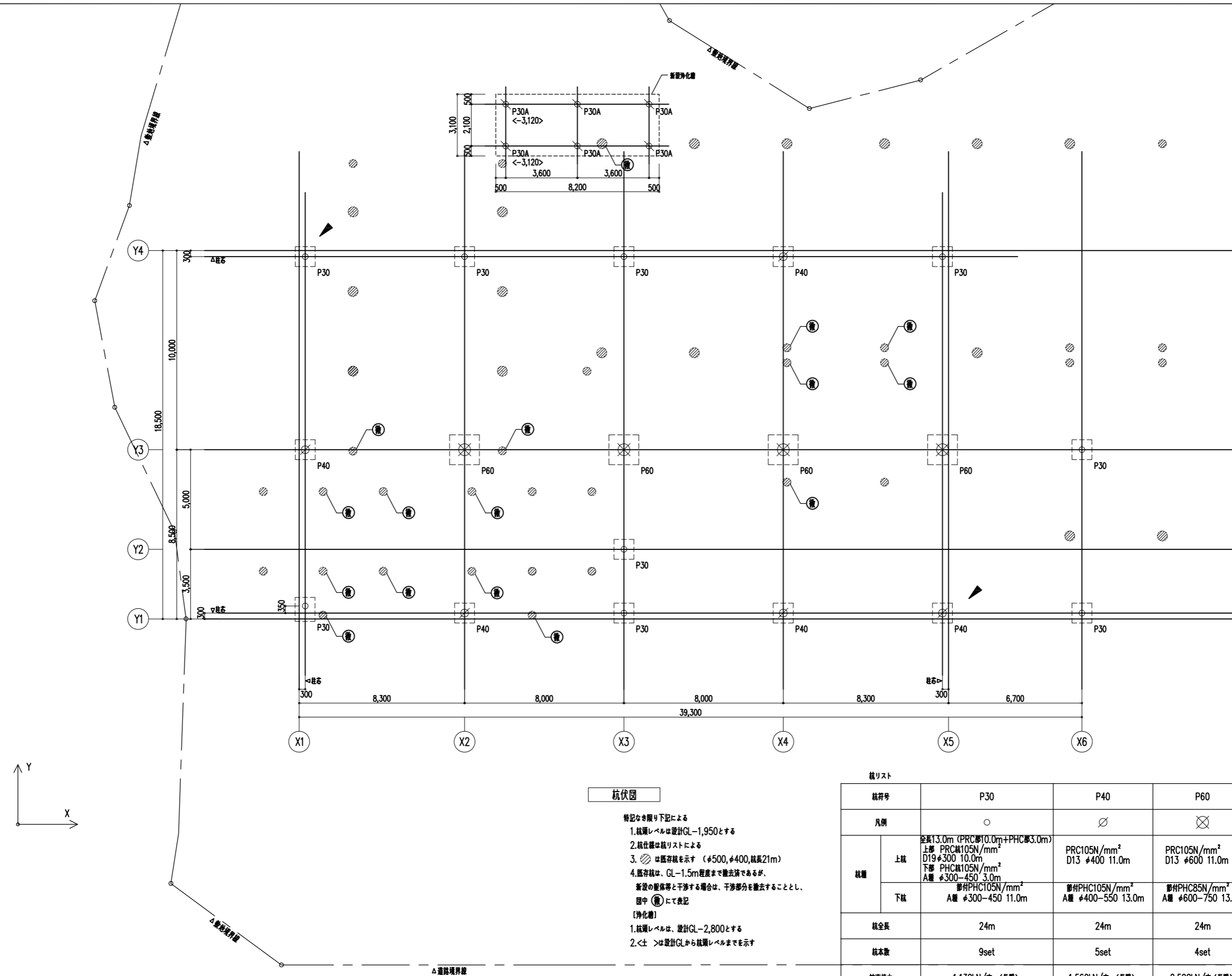
- 地層凡例 -

地質年代	地層区分	記号	
現世	盛土	B	
	第四紀 完新世 沖積層	粘性土層1	Ac1
		砂質土層1	As1
	第四紀 更新世 平山層	粘性土層2	Ac2
		砂質土層2	As2
	新第三紀 中新世 礫層	礫質土層1	Ag1
粘性土層		Pg	
新第三紀 中新世 礫層	砂質土層	Ps	
	シルト岩層	R	



一般地質士事務所
(国) M77312号
新潟県上越市 関口渡野
電話 025-22614号
設計者 寺尾祐紀
監査者 寺尾祐紀
発注者 上越市
発行者 寺尾祐紀
発行日 2023.08

Job No. 23001
工事名 金谷地区公民館 新築工事 (建築工事)
発行日 2023.08



杭伏図

- 特記なき限り下記による
1. 杭頭レベルは設計GL-1,950とする
 2. 杭仕様は杭リストによる
 3. は既存杭を示す (φ500, φ400, 杭長21m)
 4. 既存杭は、GL-1.5m程度まで撤去済であるが、新設の躯体等と干渉する場合は、干渉部分を撤去することとし、図中 にて表記
- [浄化槽]
1. 杭頭レベルは、設計GL-2,800とする
 2. <上>は設計GLから杭頭レベルまでを示す

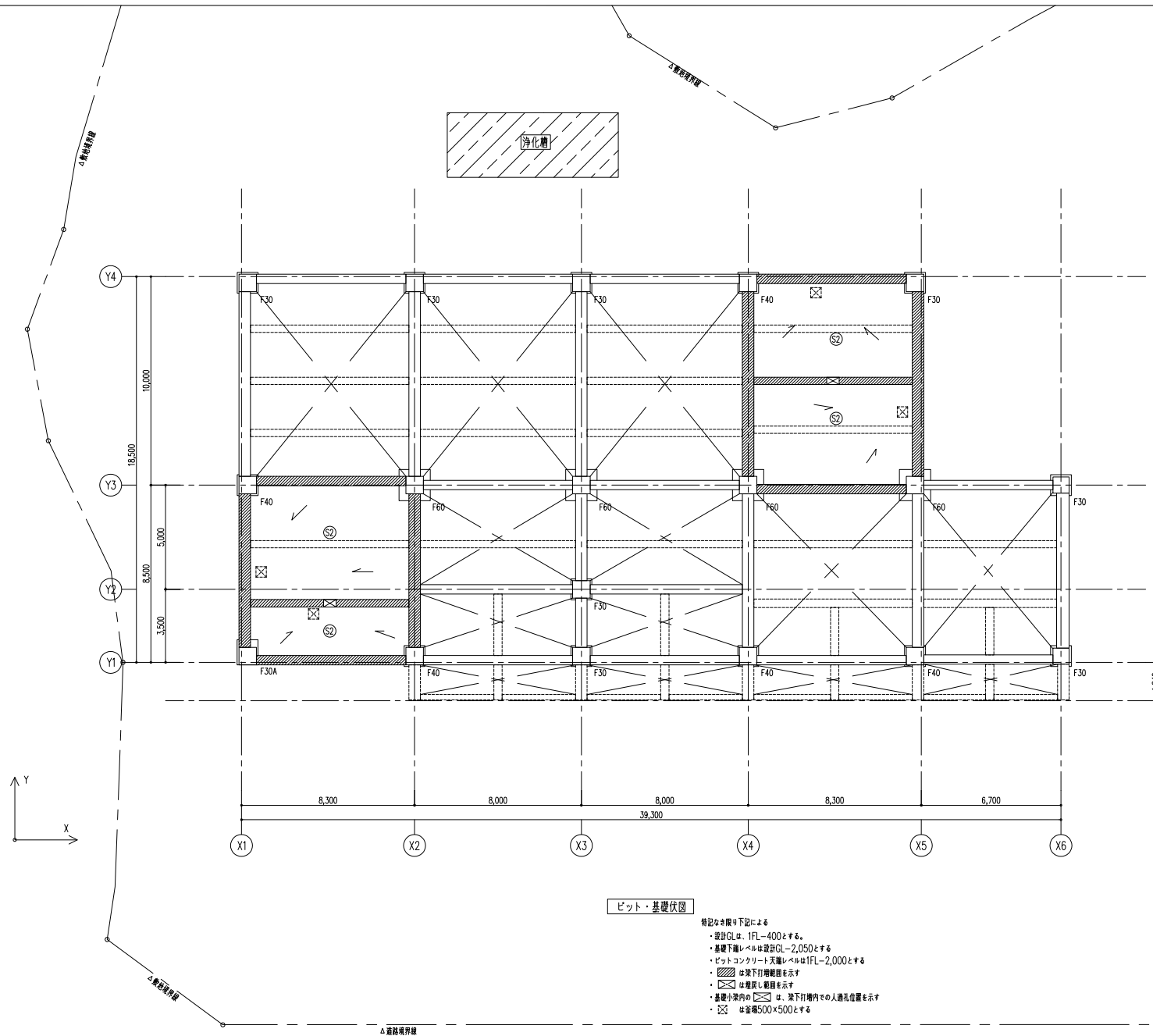
杭リスト		(浄化槽杭)				
杭符号	P30	P40	P60	P30A		
凡例	○	∅	⊗	⊘		
杭種	上杭	全長13.0m (PRCφ105N+PHCφ3.0m) 上部 PRCφ105N/mm ² D19 φ300 10.0m 下部 PHCφ105N/mm ² A層 φ300-450 3.0m	PRC105N/mm ² D13 φ400 11.0m	PRC105N/mm ² D13 φ600 11.0m	PHC 85N/mm ² A層 φ300 7.0m	
	下杭	部付PHC105N/mm ² A層 φ300-450 11.0m	部付PHC105N/mm ² A層 φ400-550 13.0m	部付PHC85N/mm ² A層 φ600-750 13.0m	部付PHC85N/mm ² A層 φ300-450 10.0m	
杭全長	24m	24m	24m	17m		
杭本数	9set	5set	4set	6set		
杭支持力	1,130kN/本 (長期)	1,560kN/本 (長期)	2,590kN/本 (長期)	360kN/本 (長期)		

備考 工法：プレボリング拡大掘削工法 (Hybridリーディング工法、標準型)
設計杭径比 es=1.2 設計掘削径比 es=1.2同等
杭施工：無筋挿入
 は試験杭 (本試験用) 位置を示す (計2本)
認定番号：TACP-0543 (粘土質地盤) 同等

一級建築士事務所登録
(長野) M第77312号
管理建築士 一級建築士登録
第208750号 関口浪男
設計者
一級建築士登録
第376839号 寺尾祐紀
構造設計一級建築士登録
第8602号 渡辺明元
構造関係規定に適合することを確認した
検査者 大久保
担当責任者 寺尾
担当 村上

Job No. 23001
工事名
金谷地区公民館
新築工事
(建築工事)
発行日 2023.08
図面名称

杭伏図
縮尺 A1:1/100 A3:1/200
S-12



ピット・基礎伏図

- 特記なき限り下記による
- ・現況CLは、1FL-400とする。
 - ・基礎下層レベルは現況CL-2,050とする
 - ・ピットコンクリート天端レベルは1FL-2,000とする
 - ・ は床下打範線を示す
 - ・ は埋戻し範囲を示す
 - ・基礎小決内の は、梁下打範内での人通り位置を示す
 - ・ は管径500×500とする

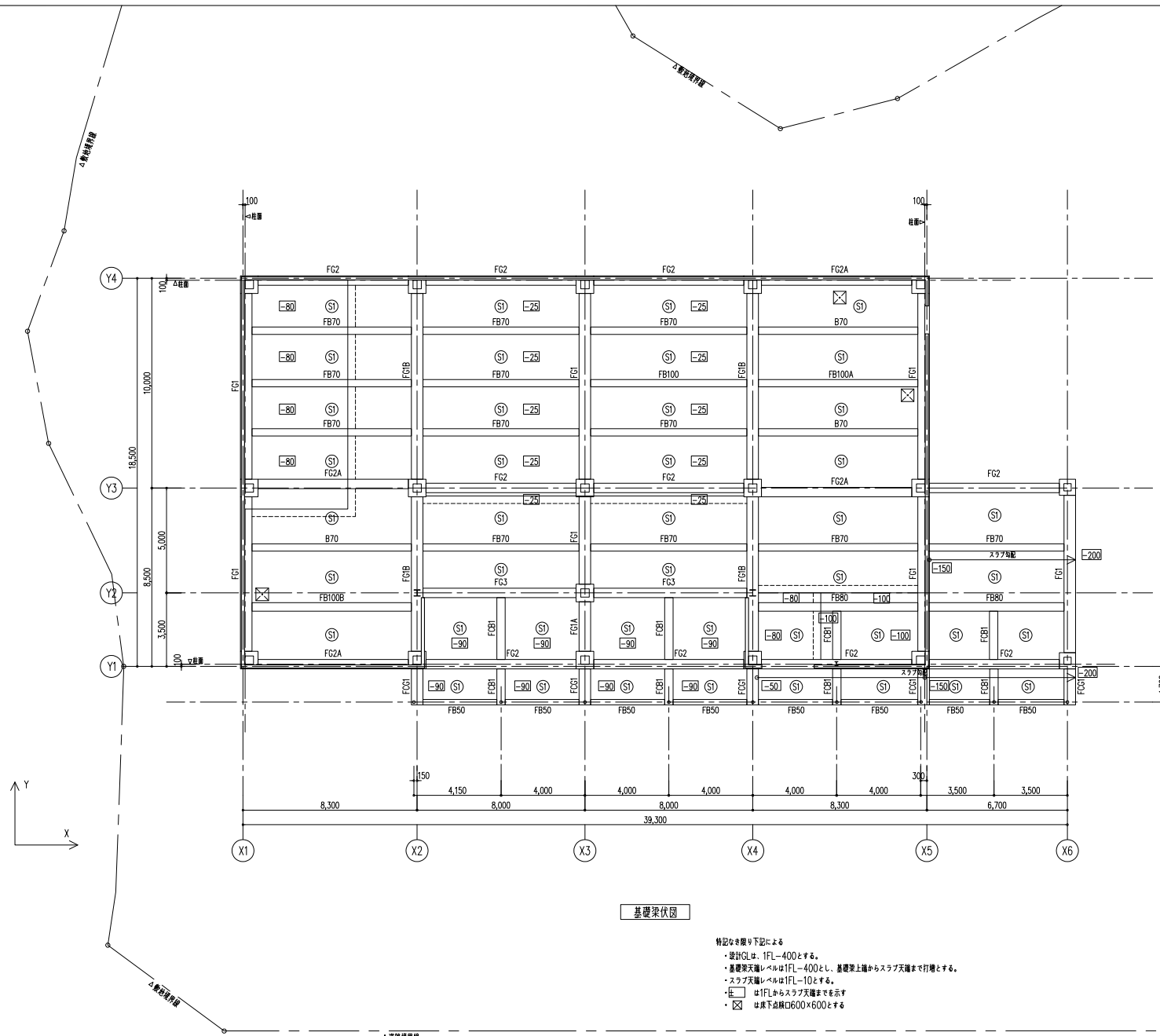
一般建築士事務所登録
(国) M建 77312 号
管理建築士 一般建築士登録
第208750号 関口浪男

設計者
一般建築士登録
第 376639 号 寺尾祐紀
構造設計一般建築士登録
第 8602 号 渡辺明元
構造関係法令に適合するとの確認済書
検査者 大久保
担当責任者 寺尾
製図 村上

Job No. 23001
工事名

金谷地区公民館
新築工事
(建築工事)
発行日 2023.08
図面名称

ピット・基礎伏図
縮尺 A1:1 / 100 A3:1 / 200



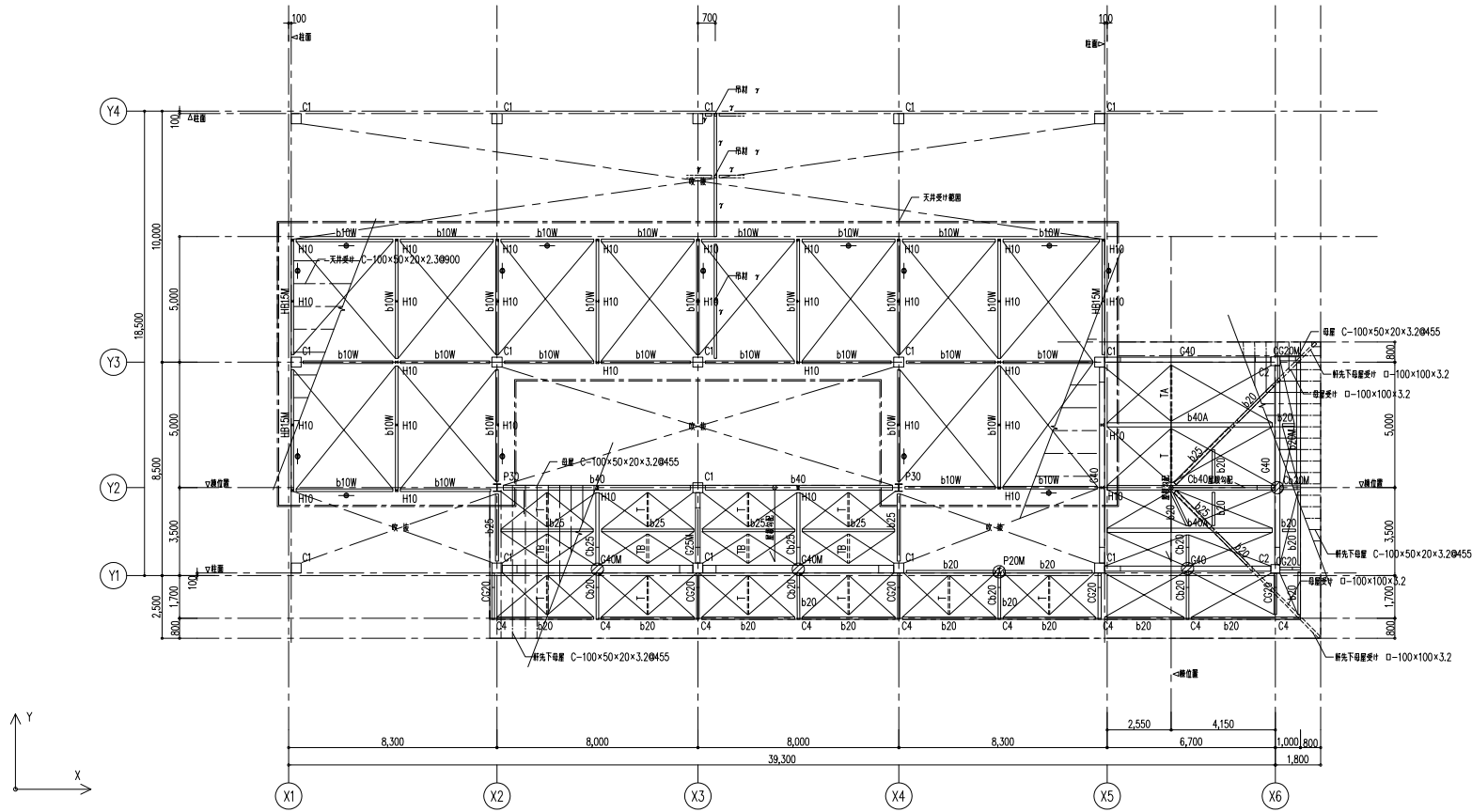
基礎梁伏図

特記なき限り下記による
 ・設計QL中、1FL-400とする。
 ・主要梁天端シヤカは1FL-400とし、基礎梁上端からスラブ天端まで打増とする。
 ・スラブ天端シヤカは1FL-10とする。
 ・[] は1FLからスラブ天端までを示す
 ・☒ は床下取幅600×600とする

一般建築士事務所登録
 (国) M建 77312 号
 管理建築士 一級建築士登録
 第208750号 関口 浪男
 設計者
 一般建築士登録
 第 376639 号 寺尾 祐紀
 構造設計一般建築士登録
 第 8602 号 渡辺 明元
 構造関係技術士登録番号なし
 検査者 大久保
 担当責任者 寺尾
 製図 村上

Job No. 23001
 工事名
 金谷地区公民館
 新築工事
 (建築工事)
 発行日 2023.08
 図番

基礎梁伏図
 縮尺 A1:1 / 100 A3:1 / 200



R1F梁伏図

特記なき限り下記による

- ・ 取付実継手位置は柱芯から800とする
- ・ 水平ブレースは1-M22 (タンバックル付) とする。真・底部分は1-M16 (タンバックル付) とする
- ・ は剛接合位置を示す
- ・ X方向の小梁は鉛直とする (天吊り梁)
- ・ 水平ブレースは1-M12 (タンバックル付) とする
- ・ は軸ブレース 1-M12 (タンバックル付) 位置を示す

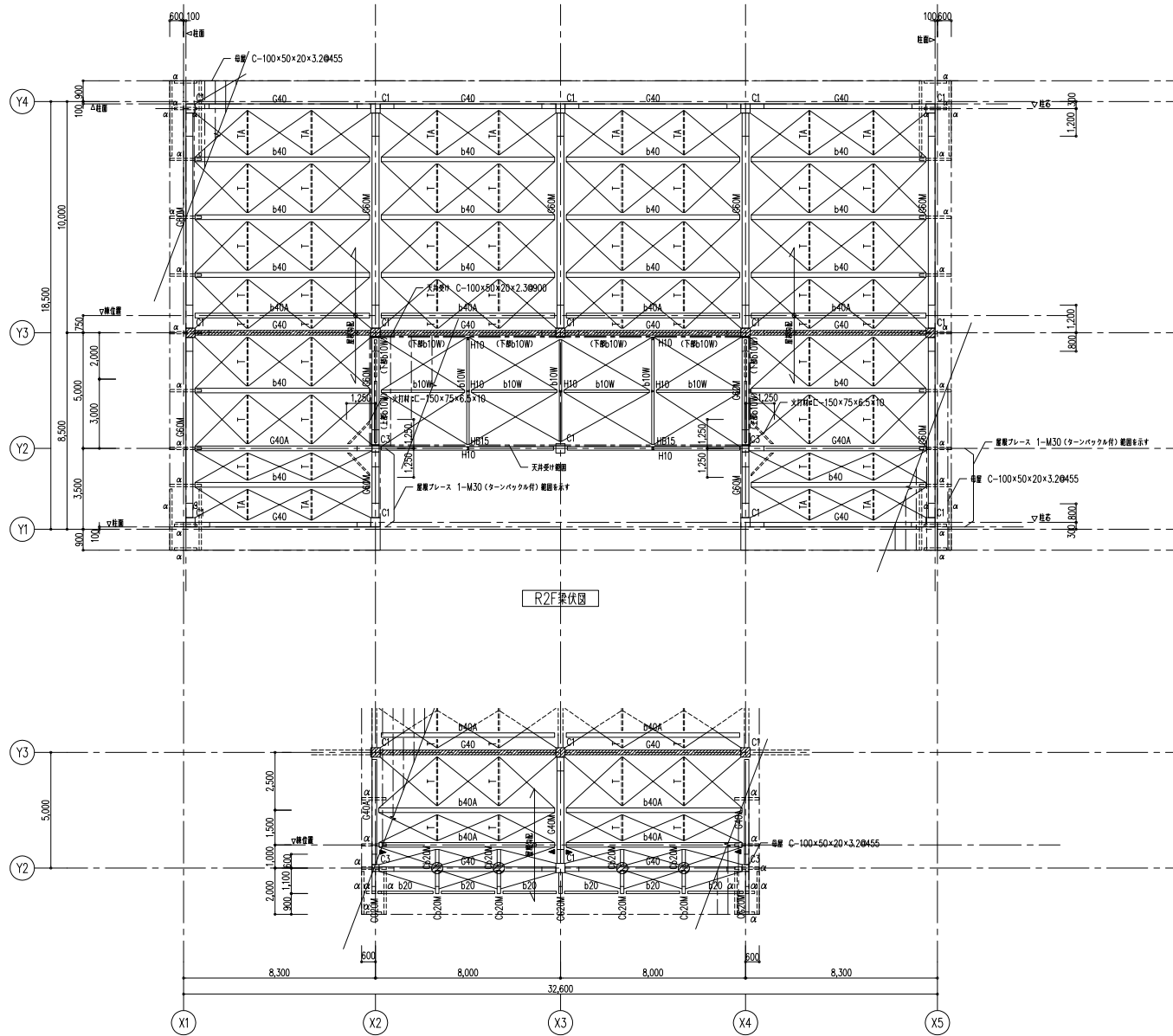
一級建築士事務所
(有限) M建 77312 号
管理棟 一級建築士登録
第208750号 関口 浪男
設計者
一級建築士事務所
第 376639 号 寺尾 祐紀
構造設計 一級建築士事務所
第 8602 号 渡辺 明元
構造関係図面を適合するに必要最小限
検査者 大久保
担当責任者 寺尾
製図 村上

Job No. 23001
工事名

金谷地区公民館
新築工事
(建築工事)
発行日 2023.08
図面名称

R1F梁伏図

縮尺 A1:1 / 100 A3:1 / 200



R2F梁伏図

R3F梁伏図

- 特記なき限り下記による
- 梁手位置は柱芯から800とする
 - 水平ブレースは1-M24 (ターンバックル付) とする。尚、底部分は1-M16 (ターンバックル付) とする。
 - は剛接合を示す
 - は方柱材 L-75×75×6位置を示す
 - ▨ は梁上かけ材。CT-250×200×10×16位置を示す
 - × 方向の小梁は略図とする (α材も同様とする)
 - [天井梁]
 - 水平ブレースは1-M12 (ターンバックル付) とする

一般建築士事務所登録 (国)	M編 77312 号
管理建築士 一般建築士登録 第208750号	関口浪男
設計者	一般建築士事務所
第 375639 号	寺尾祐紀
構造設計一般建築士登録 第 8602 号	渡辺明元
構造関係法令に適合する全ての関係法令	
検査者	大久保
担当責任者	寺尾
担当	村上

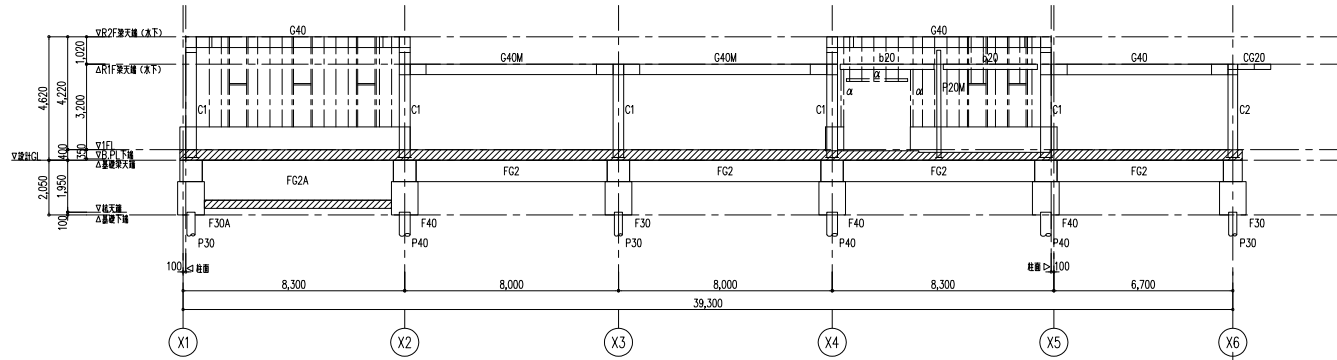
Job No. 23001
工事名

金谷地区公民館
新築工事
(建築工事)
発行日 2023.08
図面名称

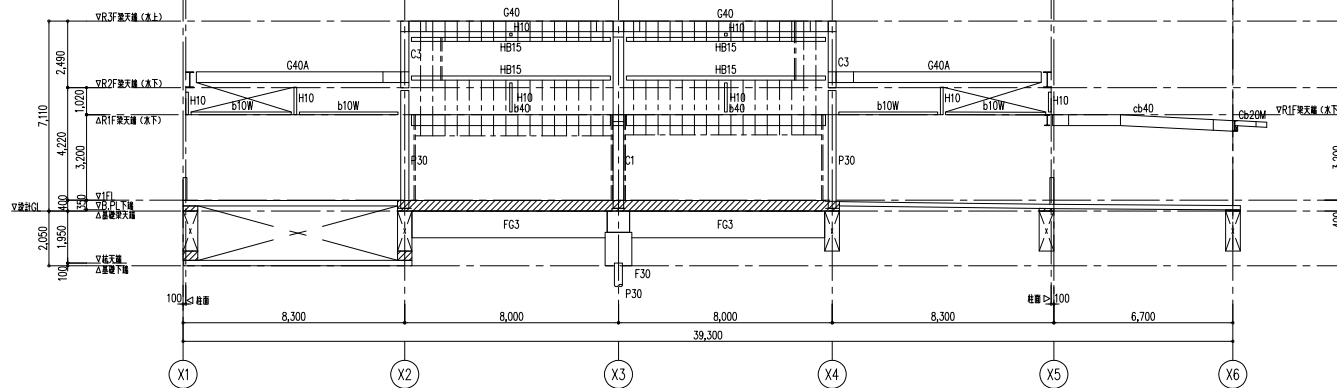
R2F-R3F梁伏図

縮尺 A1:1 / 100 A3:1 / 200

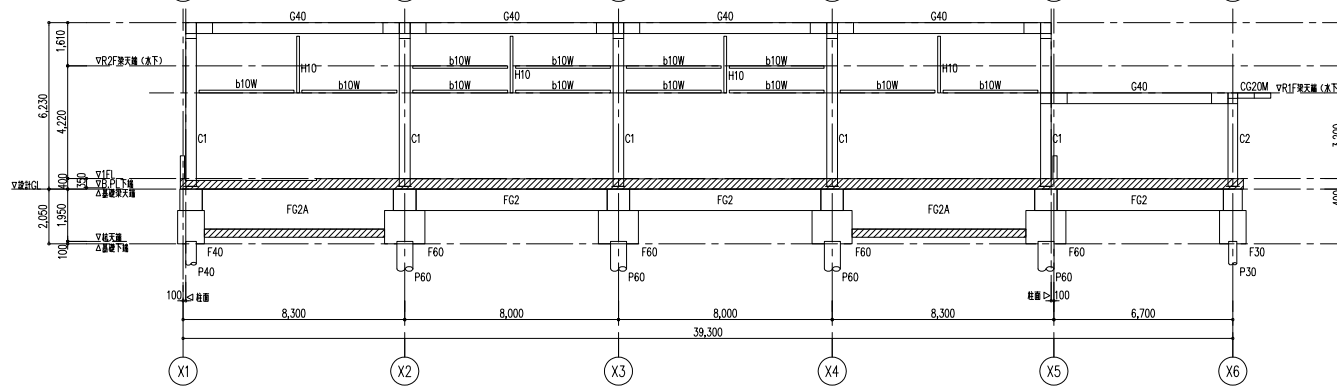
Y1通 軸組図



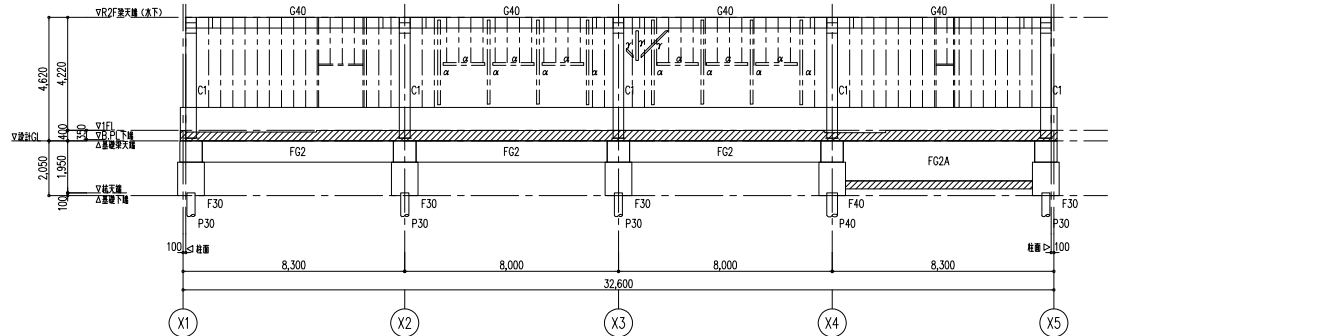
Y2通 軸組図



Y3通 軸組図



Y4通 軸組図



特記なき限り下記による
 ・鉄骨梁継手位置は柱石から800とする
 ・斜線は基礎打掃範囲を示す
 ・鋼材はC-100×50×20×2.3@455、自己密着ダブルとする
 ・軸ブレースは1-M12 (ターンバックル付)とする

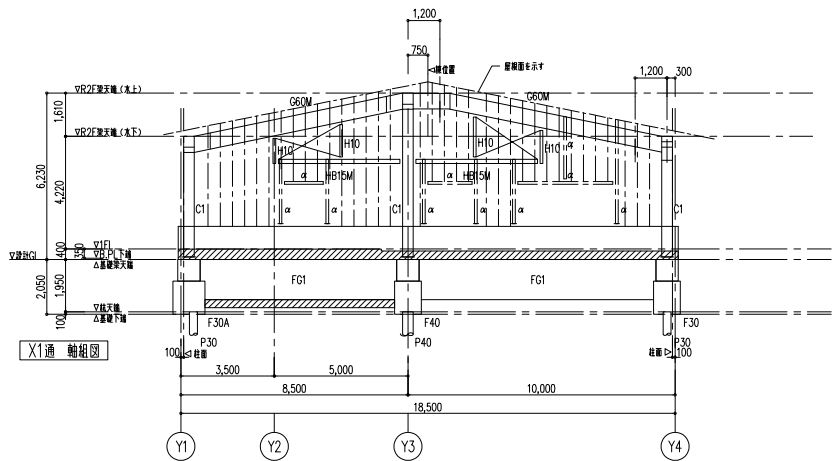
一級建築士事務所登録 (国)	M建 77312 号
登録建築士登録 第208750号	関口浪明
設計者	
一級建築士登録 第 376639 号	寺尾祐紀
構造設計一級建築士登録 第 8602 号	渡辺明元
構造関係図作成者 構造関係図作成者	大久保
監理責任者	寺尾
監理	村上

Job No. 23001
 工事名

金谷地区公民館
 新築工事
 (建築工事)
 発行日 2023.08
 図面名称

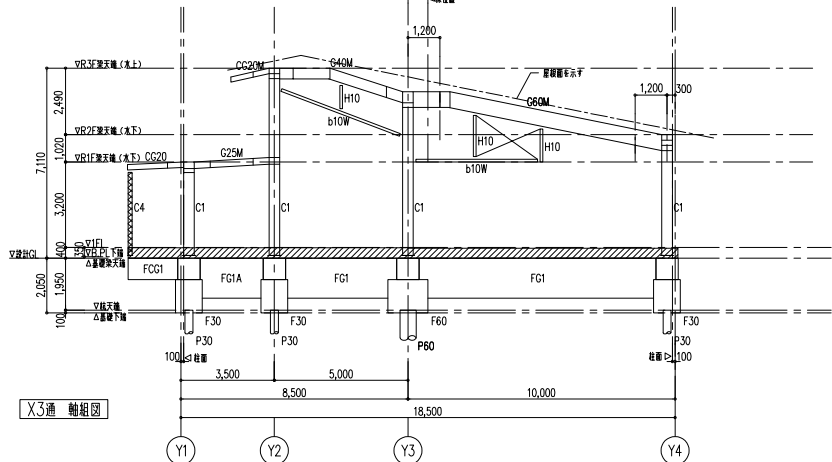
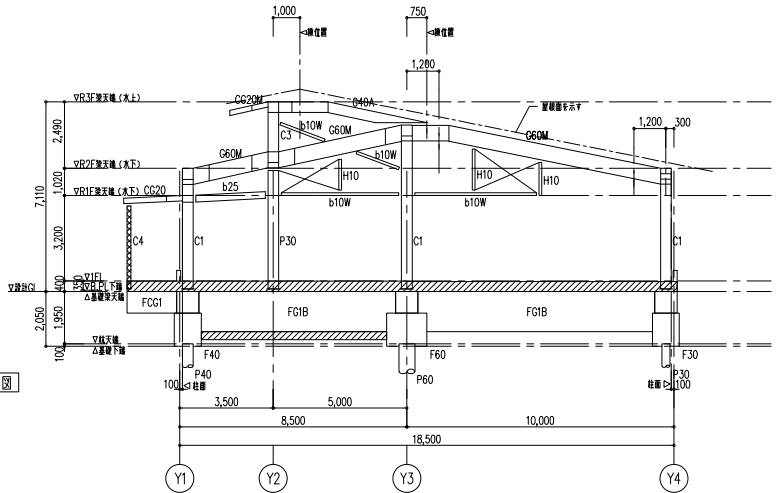
軸組図(1)

縮尺 A1:1 / 100 A3:1 / 200



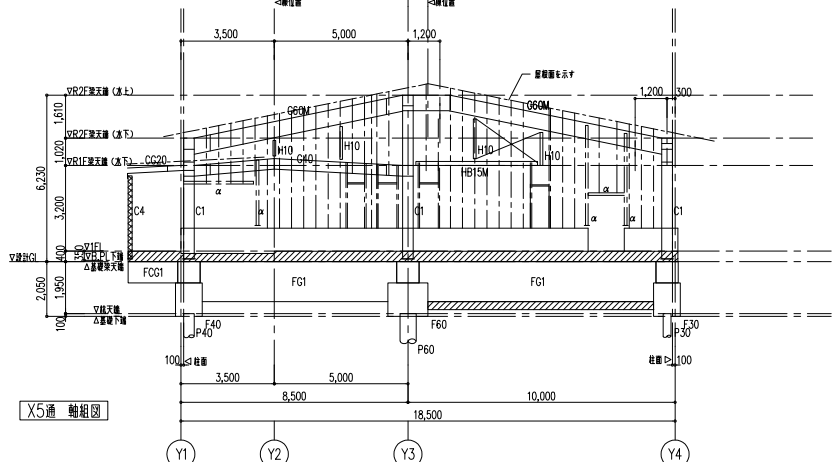
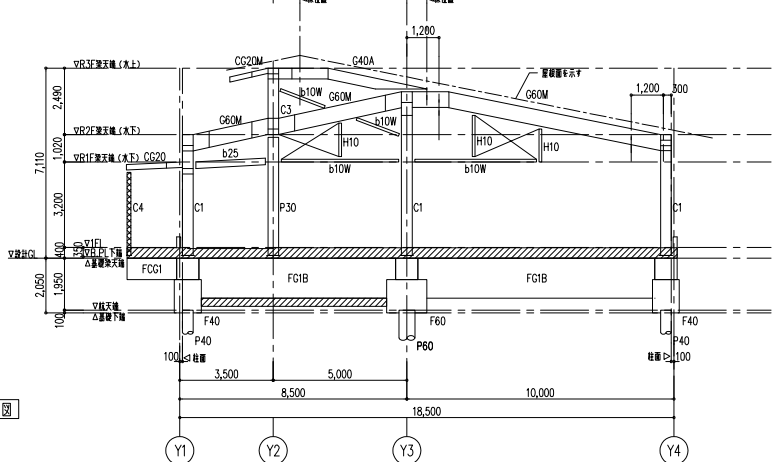
X1通 軸組図

X2通 軸組図



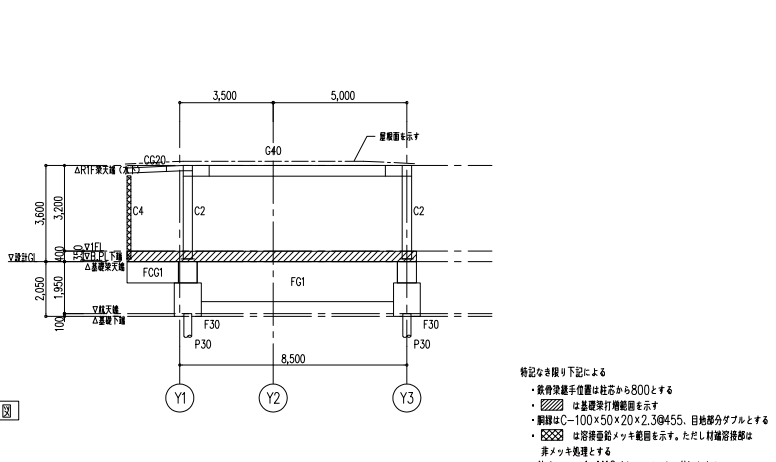
X3通 軸組図

X4通 軸組図



X5通 軸組図

X6通 軸組図



- 特記なき限り下記による
- 取得済継手位置は柱から800とする
 - は基礎梁打増範囲を示す
 - 鋼線はC-100×50×20×2.3@455、目地部分ダグとする
 - は溶接面給メッキ範囲を示す。ただし材端溶接部は非メッキ処理とする
 - 継プレースはM12 (ターンバックル付) とする

一般職工事務所	〒77312 号
一級建築士事務所	(有限) M07 77312 号
管理棟	第 3756330 号
設計者	寺尾祐紀
構造設計	一般建築士事務所
第 8602 号	渡辺明元
構造設計	構造設計株式会社
検査者	大久保
担当責任者	寺尾
監理	村上

Job No. 23001
工事名

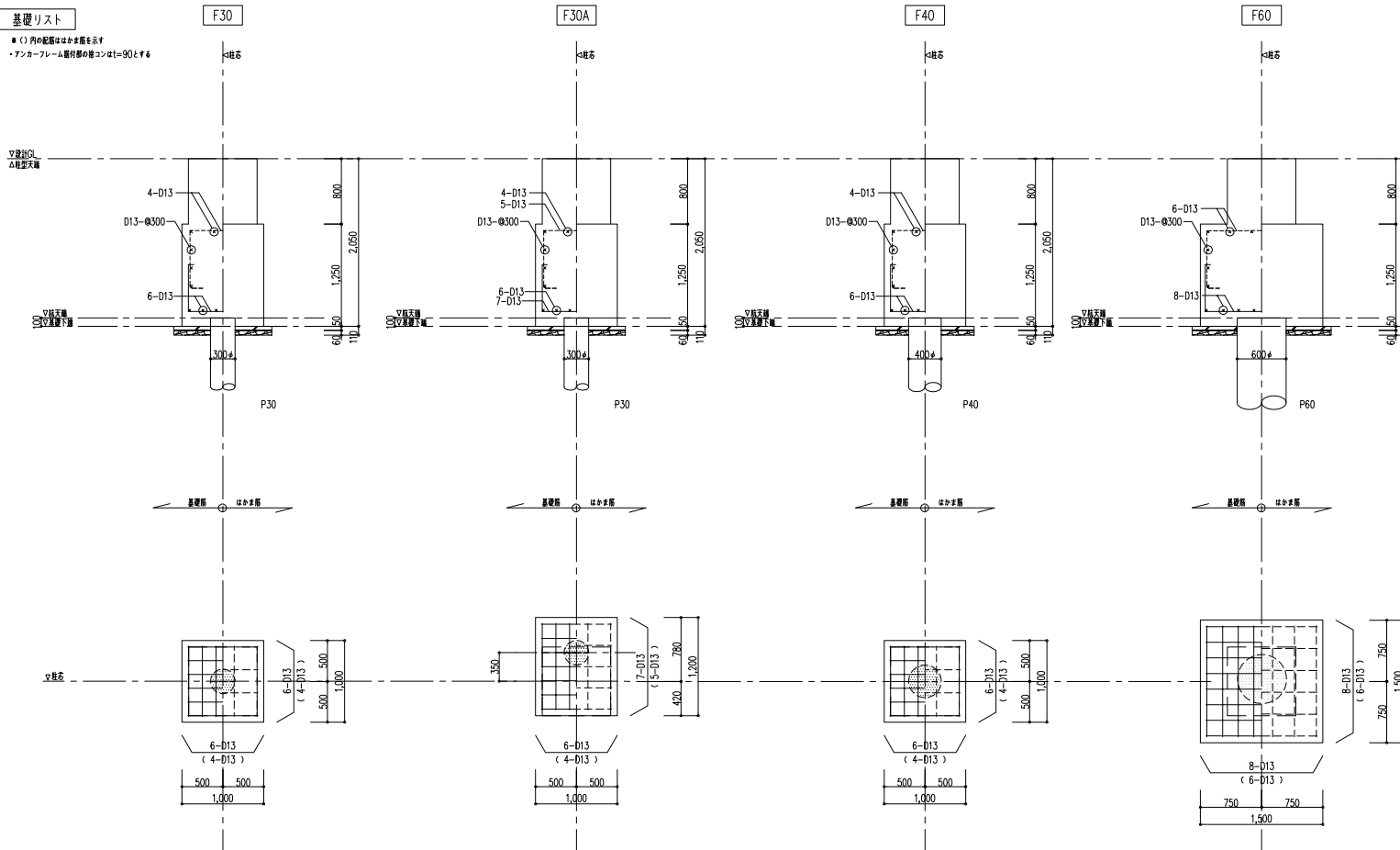
金谷地区公民館
新築工事
(建築工事)
発行日 2023.08
図面名称

軸組図(2)

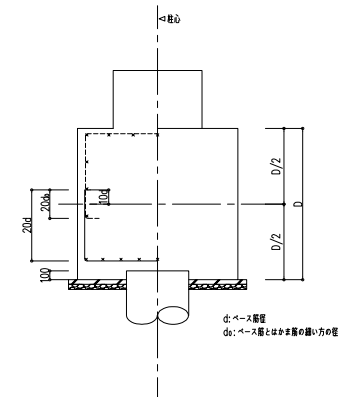
縮尺 A1:1/100 A3:1/200

基礎リスト

- () 内の配筋ははかま筋を示す
- ・アンカーフレーム取付部の壁コンは90とする



基礎取外筋配筋要領図



一般建築士事務所
(有限) 事務所 1712 号

管理建築士 一級建築士登録
第208750号 関口 浪男

設計者
一般建築士事務所
第 1712 号 寺尾 祐紀
概算設計 一般建築士事務所
第 842 号 渡辺 明元
構造関係施工適合確認 大久保 隆
担当設計者 寺尾 祐紀
監修 村上 隆

Job No. 23001
工事名

金谷地区公民館
新築工事
(建築工事)
発行日 2023.08
図面番号

基礎リスト

縮尺 A1: 1/30 A3: 1/60

基礎梁リスト

・巾上縁#D10-@1000以内とする

符号	FG1	FG1A	FG1B	FG2	FG2A	FG3
位置	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面
断面						
B×D	550 x 1,500	550 x 1,500	550 x 1,500	450 x 800	450 x 1,500	450 x 1,000
上縁筋	10-D25	10-D25	12-D25	7-D25	5-D25	7-D25
下縁筋	9-D25	9-D25	9-D25	6-D25	4-D25	6-D25
鉄筋	8-D13	8-D13	8-D13	2-D13	8-D13	4-D13
スターアップ	2-D13@200	3-D13@200	2-D13@200	2-D13@200	2-D13@200	2-D13@200

基礎小梁リスト

・巾上縁#D10-@1000以内とする

符号	FB50	FB70・B70		FB80	FB100		FB100A		FB100B		FCB1	FCG1	
位置	全断面	内縁部	外縁部	中央部	内縁部	外縁部・中央部	両縁部	中央部	両縁部	中央部	全断面	全断面	
断面													
B×D	250 x 500	350 x 700		400 x 800		350 x 1,000		350 x 1,000		400 x 1,000		400 x 800	550 x 800
上縁筋	2-D19	5-D22	3-D22	3-D22	5-D22	4-D22	5-D22	3-D22	5-D22	3-D22	4-D22	6-D22	4-D25
下縁筋	2-D19	3-D22	3-D22	4-D22	3-D22	4-D22	3-D22	3-D22	3-D22	4-D22	4-D22	4-D22	3-D25
鉄筋	-	-	2-D13	-	2-D13	-	4-D13	-	4-D13	-	4-D13	2-D13	2-D13
スターアップ	2-D10@200	2-D13@200		2-D13@200		2-D13@200		2-D13@200		2-D13@200		2-D13@200	2-D13@200

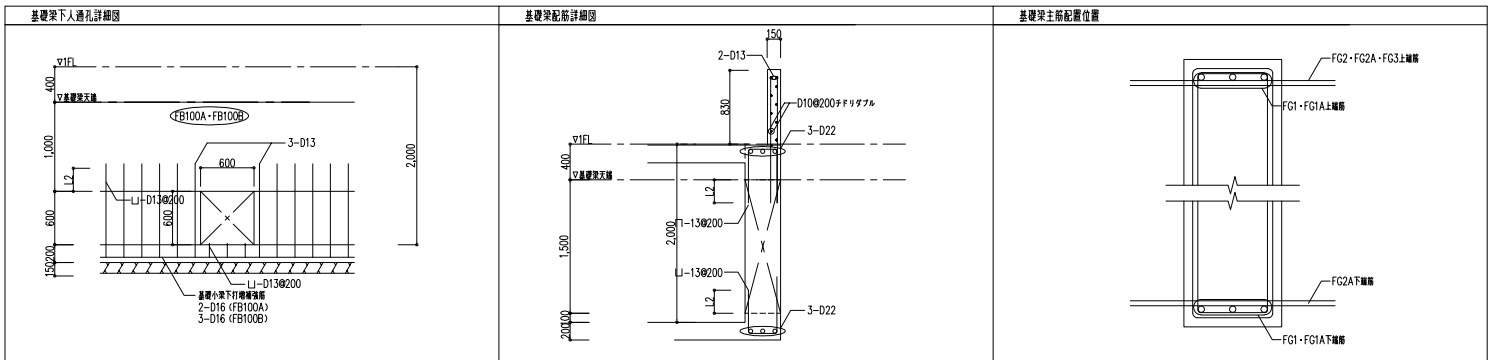
※B70は省略しとする。

※上縁筋はFG1・FG1Aの値を記載とする。

柱型リスト

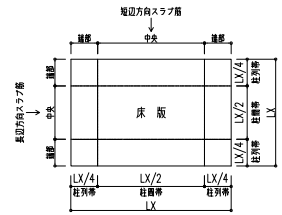
符号	C1	C2
柱型上部 打増部		
Dx×Dy	840×840	710×710
主筋	12-D16	8-D16
HOOP	□-D13@100	□-D13@100
符号	C1	C2
断面		
Dx×Dy	840×840	710×710
主筋	12-D25	8-D19
HOOP	□-D13@100	□-D13@100

雑詳細図 S=1/30

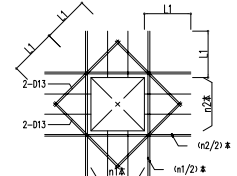


床版リスト

符号	版厚	位置	短辺方向	長辺方向	備考
S1	160	上縁筋	D10-D13-@200	D10-@200	
		下縁筋	D10-@200	D10-@200	
S2	200	上縁筋	D13-@200	D13-@200	ビット設置
		下縁筋	D10-D13-@200	D10-D13-@200	



スラブ開口補強要領



・最大径が700mm以下に限定。
 ・スラブ開口によって得られる長さを同量の鉄筋で補強し、隅角部は斜め方向に2-D13 (n=2L) シンクを上下縁の内側に配筋する。
 ・スラブ開口の最大短辺方向の長さLは、鉄筋を斜めに配置することにより、開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することもできる。

一般建築士事務所
(有限) 事務所 11212 号

管理棟 1F 一般建築士事務所
第208750号 開口部

設計者 一般建築士事務所
 設計者 寺尾祐紀
 監理者 一般建築士事務所
 第 842 号 渡辺明元
 監理者 寺尾祐紀
 監理者 大久保
 監理者 寺尾
 監理者 村上

Job No. 23001
 工事名

金谷地区公民館
 新築工事
 (建築工事)
 発行日 2023.08
 図面番号

RC部材リスト

図尺 A1: 1/30 A3: 1/60

鉄骨部材リスト

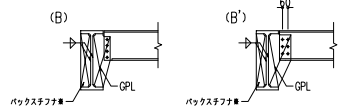
・指定の重量、鋼材種別はSS400とする
 ・溶接手はSCSS-H97による
 ・通しダイヤフラムはSN490Cとし、内ダイヤフラムはSN490Bとする。HTBはS10Tとする

大梁リスト (片持ち梁リスト)					柱リスト		小梁リスト					二次部材リスト					
符号	部材	フランジ継手		ウェブ継手		符号	部材	ベースプレート	符号	部材	タイプ	ウェブ継手		備考	名称	部材	継手
		添板(外)	HTB	添板	HTB							GPL	HTB				
C25M (SN400B)	H-244x175x7x11	2PL-9x175x410 4PL-9x70x410	4x6-M16	2PL-6x170x290	2x4-M16	C1 (BGR295)	□-400x400x19	高出型鋼材溶接継手	b10W	H-100x100x6x8	B'	G.PL-6	2桁x1-M16		母屋 (SSC400)	C-100x50x20x3.2 ④M55 (1,820mmにダイヤ)	PL-4.5 中ボルト 2-M12
G40 (SN400B)	H-400x200x8x13	2PL-9x200x410 4PL-9x80x410	4x6-M20	2PL-9x260x170	2x4-M20	C2 (BGR295)	□-350x350x16	高出型鋼材溶接継手	b20M	H=200x100x5.5x8	B	G.PL-6	2-M16		床桁 (SSC400)	C-100x50x20x2.3 ④B90	PL-4.5 中ボルト 2-M12
Cb40 (SN400B)	H-400x200x8x13	2PL-9x200x410 4PL-9x80x410	4x6-M20	2PL-9x260x170	2x4-M20	C3 (BGR295)	□-300x300x12		b25	H=250x125x6x9	B	G.PL-6	3-M16		隅材 (SSC400)	C-100x50x20x2.3 ④M55 目地部分ダイヤ	2PL-4.5 中ボルト 2-M12
G40A (SN400B)	H-400x200x8x13	2PL-9x200x410 4PL-9x80x410	4x6-M20	2PL-9x260x170	2x4-M20	C4 (STKR400)	φ-139.8x6.0		b40	H=400x200x8x13	B'	G.PL-9	2桁x5-M20		α (STKR400)	□-100x100x3.2	PL-4.5 中ボルト 2-M12
G40M (SN400B)	H-390x300x10x16	2PL-12x300x440 4PL-12x110x440	4x8-M20	2PL-9x260x170	2x4-M20				b40A	H=400x200x8x13	B	G.PL-9	5-M20		γ (STKR400)	□-100x100x2.3	PL-4.5 中ボルト 2-M12
G60M (SN400B)	H-588x300x12x20	2PL-12x300x530 4PL-16x110x530	4x10-M20	2PL-9x440x290	2x8-M20				T	C-100x50x5x7.5	B'	G.PL-9	2桁x1-M20		δ (STKR400)	□-100x100x3.2	PL-4.5 中ボルト 2-M12
Cc20 (SN400B)	H-200x100x5.5x8	2PL-16x100x290	4x4-M16	2PL-6x140x170	2x2-M16				TA	C-100x50x5x7.5	B'	G.PL-12	3桁x1-M20		鋼管継手 (STKR400)	□-100x100x3.2	PL-4.5 中ボルト 2-M12
Cb20 (SN400B)	H-200x100x5.5x8	2PL-16x100x290	4x4-M16	2PL-6x140x170	2x2-M16	P30	H-300x300x10x15	G.PL-6 HTB 2-M16 B.PL-16x150x300 A.Bolt 2-M16 L=480MM フック付き	HB15M	H-148x100x6x9	B'	G.PL-6	2桁x1-M16		梁平フレス	M12 (9-ランバック付き)	G.PL-6 HTB 1-M12
Cb20M・Cc20M (SN400B)	H-194x150x6x9	2PL-9x150x290 4PL-9x80x290	4x4-M16	2PL-6x140x230	2x2-M16	P20M	H-194x150x6x9	G.PL-12 HTB 9-M22 B.PL-25x360x360 A.Bolt 4-M20 L=600MM フック付き	HB15	H-150x150x7x10	B'	G.PL-9	2桁x1-M20		梁平フレス	M16 (9-ランバック付き)	G.PL-9 HTB 1-M16
Cb25 (SN400B)	H-250x125x6x9	2PL-12x125x410	4x6-M16	2PL-6x170x290	2x4-M16			G.PL-9 HTB 2-M20 B.PL-22x200x255 A.Bolt 2-M20 L=600MM フック付き	方眼鋼	C-150x75x6.5x10	B'	G.PL-9	2桁x1-M20		梁平フレス	M22 (9-ランバック付き)	G.PL-9 HTB 1-M22
										C-150x75x6.5x10	B'	G.PL-9	2桁x1-M20		梁平フレス	M24 (9-ランバック付き)	G.PL-9 HTB 1-M24
										L=75x7x6	B'	G.PL-6	2桁x1-M16		梁平フレス	M30 (9-ランバック付き)	G.PL-12 HTB 2-M22
															鋼管継手	M12 (9-ランバック付き)	G.PL-6 HTB 1-M12

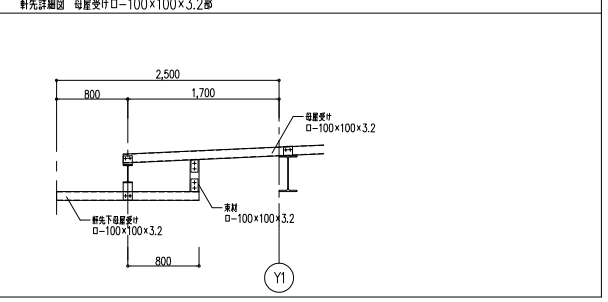
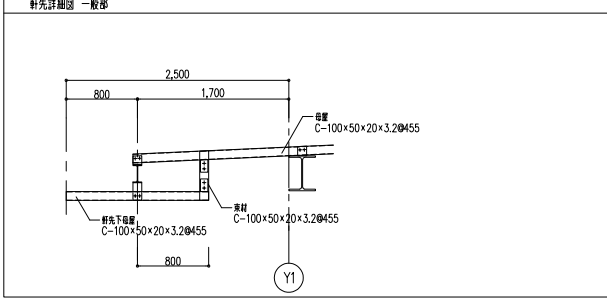
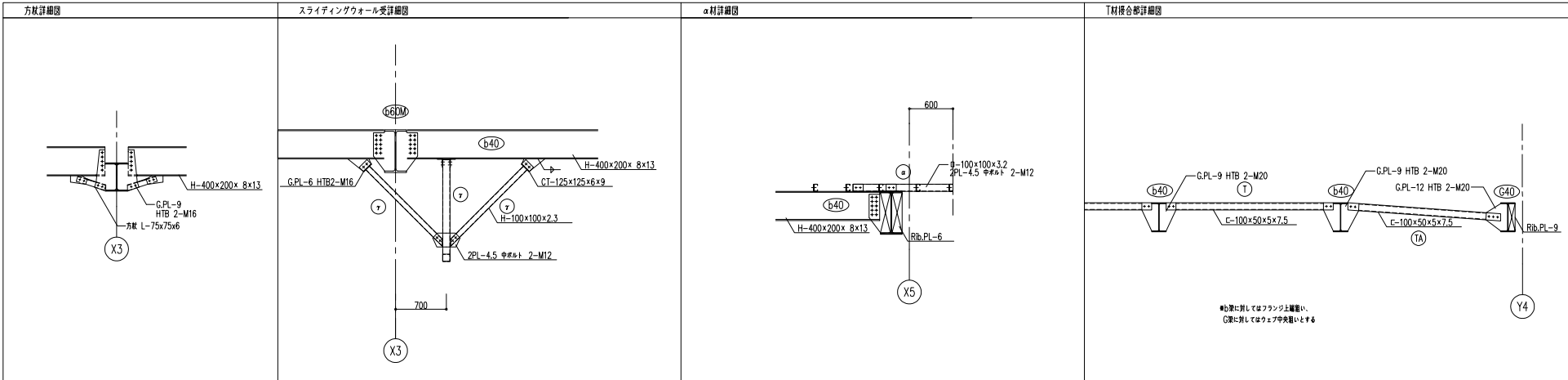
・通しダイヤフラム継手 継手付く梁フランジ最大断面が2サイズ以上大きく、かつ柱断面以上とする
 ・内ダイヤフラム継手 継手付く梁フランジ最大断面が1サイズ以上大きくする
 または、両サイズの差が継手付く通しダイヤフラムと同程度とする

小梁ジョイントタイプ

●バックスタブはGPL同等とする。
 且し、200以内の距離にGPLがバックスタブ位置にある場合は不適とする。



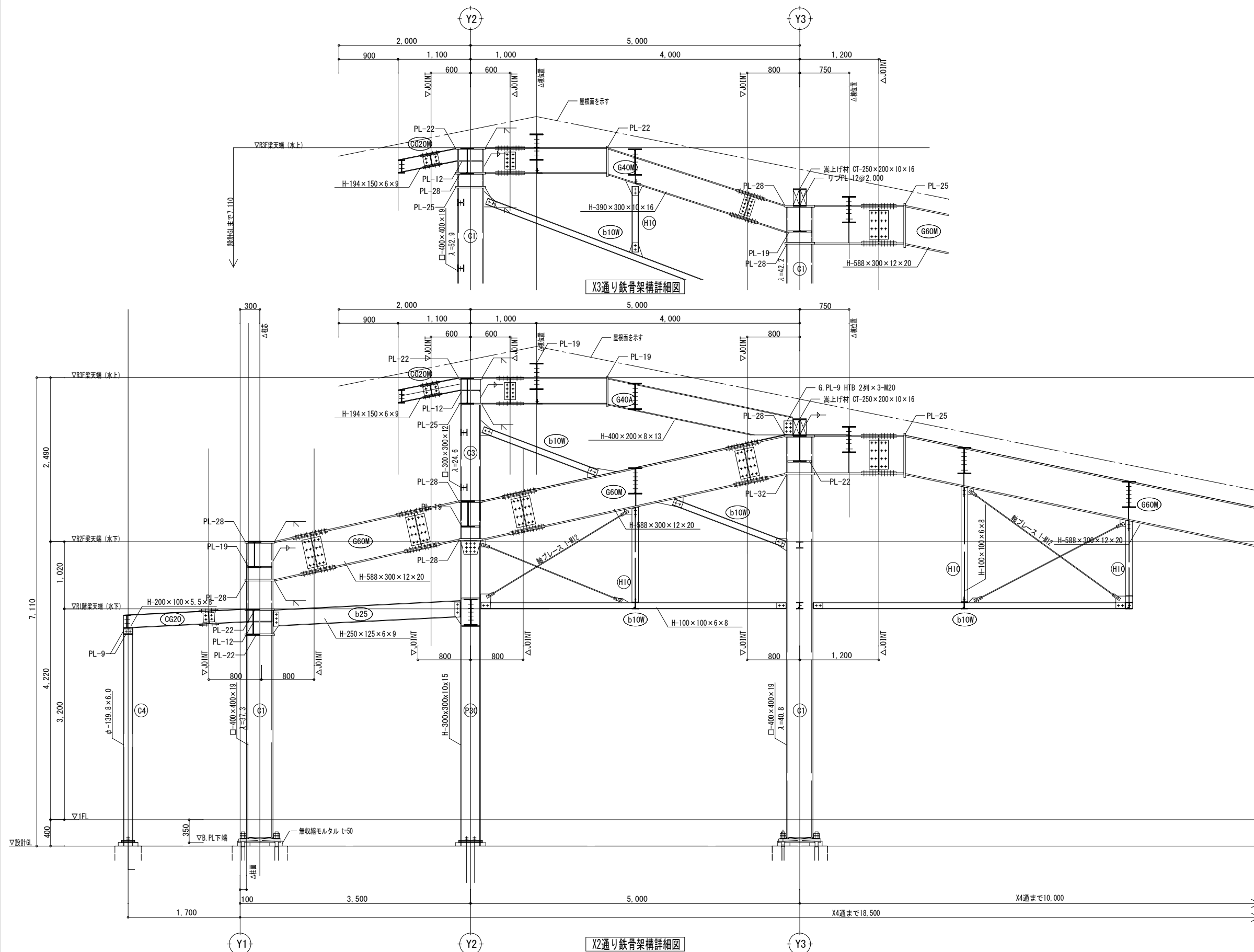
雑詳細図 s=1/30



一般建設士事務所
 (有限) 事務所 11番 1712 号
 管理棟 1F 一般建設士登録
 第208750号 関口浪男
 設計者
 一般建設士登録
 第 7779 号 寺尾祐紀
 検査員一般建設士登録
 第 842 号 渡辺明元
 検査員一般建設士登録
 第 208750号 関口浪男
 検査員
 大久保
 寺尾
 村上

Job No. 23001
 工事名
 金谷地区公民館
 新築工事
 (建築工事)
 発行日 2023.08
 図面番号

S部材リスト
 図尺 A1: 1/30 A3: 1/60
 S- 21



管理建築士 一級建築士登録
第208750号 関口浪男

監理者 寺尾祐紀

設計者 渡辺明元

構造関係規定に適合することを確認した
大久保

担当責任者 寺尾
村上

23001

金谷地区公民館
新築工事
(建築工事)
発行日 2023.08

鉄骨架構詳細図

A1: 1/30 A3: 1/60

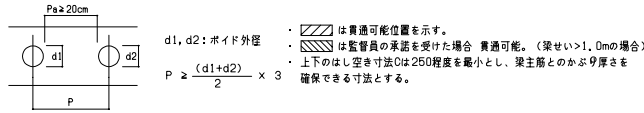
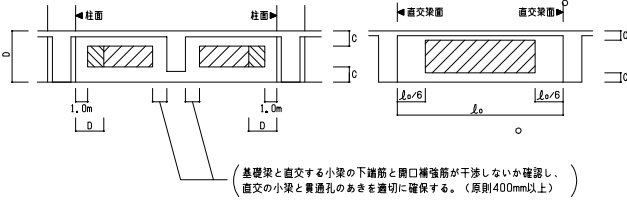
S-22 印

梁貫通孔補強要領

- 1 共通事項
 1) 柱は貫通孔を設けてはならない。
 2) 梁に貫通孔を設ける場合は監督員の承認を受ける。
 3) 形状は丸形とする。
 4) 直径は梁せいみの1/3以下とする。

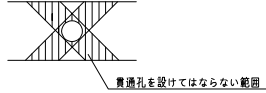
2 基礎梁の梁貫通補強

2-1 設置可能位置

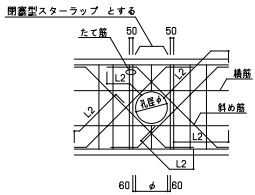


注) 貫通孔の中心間水平距離は、貫通孔平均径（ボイド外径）の3倍以上とする。
 但し、監督員が承認した場合に限り、新築整付きの基礎梁は人通りを妨げ中心間距離を貫通孔平均径（ボイド外径）の3倍以上とすることが出来る。

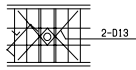
斜め線上に連続して貫通孔を設けてはならない。



2-2 在来工法による補強要領



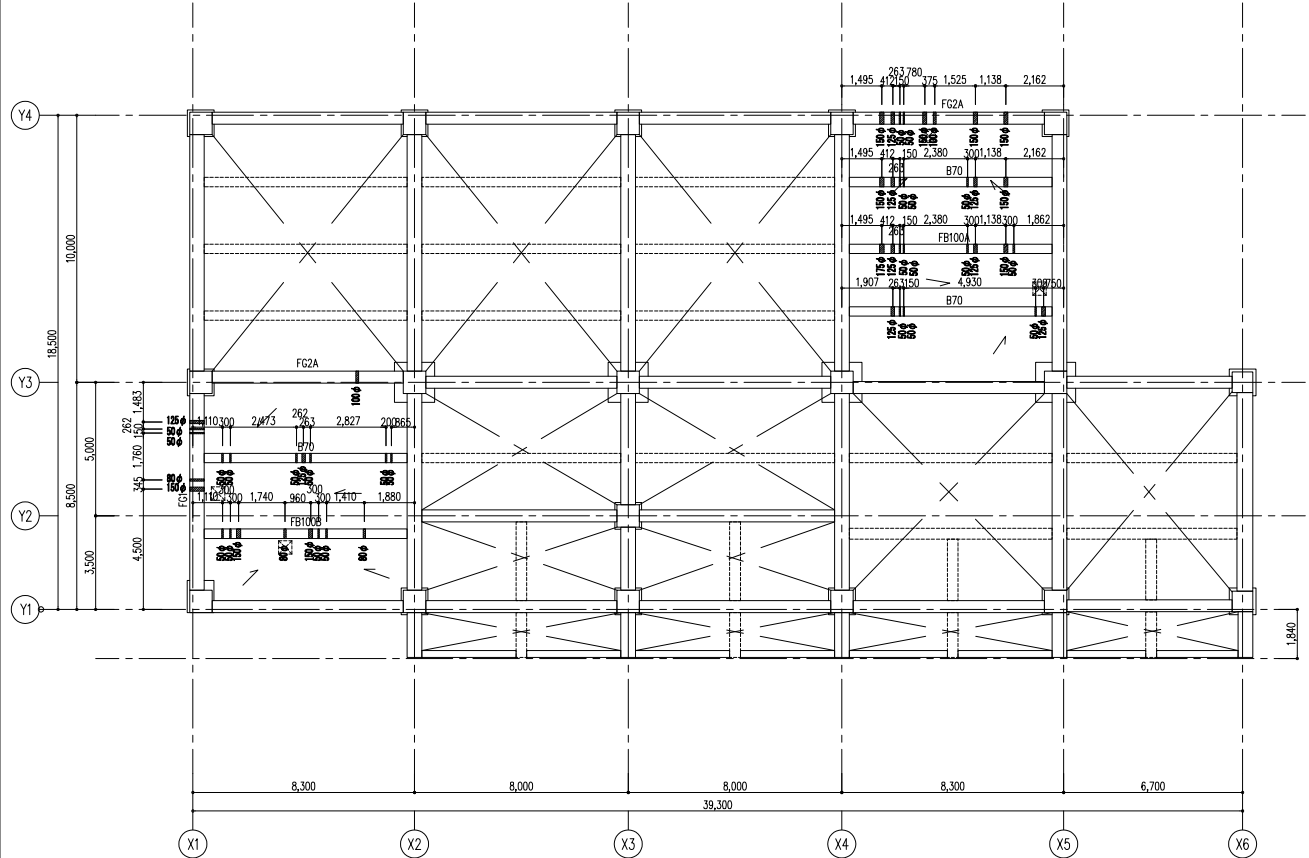
注) 縦筋及び斜め筋は孔面より定着しとする。
 構造設計用孔径は、ボイド径（外径）とする。



100φ未満のスリーブ補強
 (50φ以下は補強不要)

スリーブ内径とボイド径（外径）は下記による。

内径	外径
50	54
100	105
125	131
150	157
175	182
200	208
225	233
250	258
300	311
550	565
600	616



基礎梁貫通孔図

梁貫通孔リスト

梁記号	スリーブ内径	梁幅	梁せい	数量	縦筋	横筋	斜め筋	備考
FG1	50	550	1500	2	-	-	-	補強無
FG1	80	550	1500	1	-	-	-	補強無
FG1	125	550	1500	1	-	-	-	補強無
FG1	150	550	1500	1	2×□-D13	-	-	2-D13
FG2A	50	450	1500	2	-	-	-	補強無
FG2A	100	450	1500	2	-	-	-	補強無
FG2A	125	450	1500	1	-	-	-	補強無
FG2A	150	450	1500	4	2×□-D13	-	-	2-D13
FB100A	50	350	1000	4	2×□-D13	2-D13	-	2-D19
FB100A	125	350	1000	2	2×□-D13	2-D13	-	2-D19
FB100A	150	350	1000	1	2×□-D13	2-D13	-	2-D19
FB100A	175	350	1000	1	2×□-D13	2-D13	-	3-D19
FB100B	50	400	1000	4	2×□-D13	2-D13	-	2-D19
FB100B	80	400	1000	2	2×□-D13	2-D13	-	2-D19
FB100B	150	400	1000	2	2×□-D13	2-D13	-	2-D19
B70	50	350	700	12	2×□-D13	-	-	2-D13
B70	125	350	700	5	2×□-D13	2-D13	-	2-D13
B70	150	350	700	1	2×□-D13	2-D13	-	2-D13

一般建築士事務所
 (有限) M様 7732 号
 管理棟 1F 一般建築士事務所
 深208750号 開口浪形
 設計者
 一般建築士事務所
 第 575639 号 寺尾祐紀
 構造設計一般建築士事務所
 第 8602 号 渡辺明元
 構造設計主任造士事務所
 検査者 大久保
 担当責任者 寺尾
 監理 村上

Job No. 23001
 工事名

金谷地区公民館
 新築工事
 (建築工事)
 発行日 2023.08
 図面名称

基礎梁貫通孔図

縮尺 A1:1 / 100 A3:1 / 200